

3-3 北陸・中部地方

3-3-1 富山県

富山県では、2019年7月に中央部の富山市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、同年8月からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。

感染個体は、2020年10月までは毎月1～13頭が確認されていた。それ以降、感染個体は確認されていなかったが、2022年5月に1年半ぶりに確認され、2023年8月以降は毎月1～4頭の感染個体が確認されている（図3-3-1-a）。

免疫獲得個体の割合は、2020年2～9月は概ね50～80%で推移していたが、その後変動はあるもののやや減少し、2021年3～8月は概ね40～50%で推移していた。2021年9月以降は、感受性個体の割合が免疫獲得個体の割合を上回り、変動はあるものの、免疫獲得個体の割合は概ね10～40%で、感受性個体の割合は概ね60～90%で推移している（図3-3-1-b）。感染個体は西部と中部で確認されており、感受性個体と免疫獲得個体は西部から東部にかけて分布している（図3-3-1-c）。

図3-3-1-a 富山県におけるPCR陽性頭数とPCR陽性割合の推移

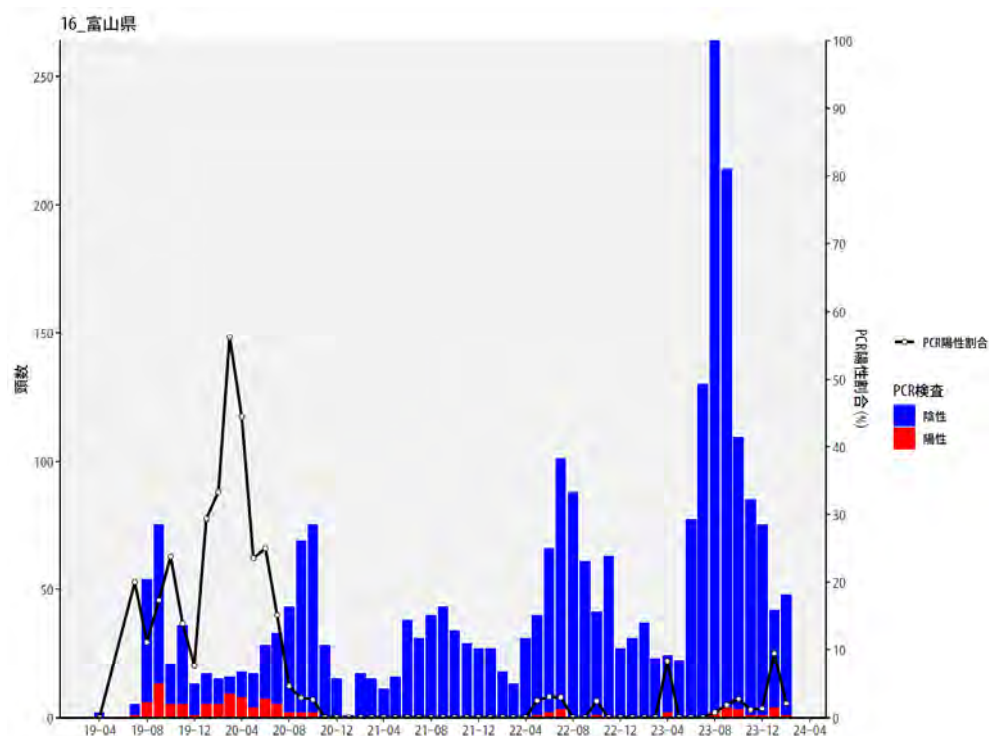


図 3-3-1-b 富山県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

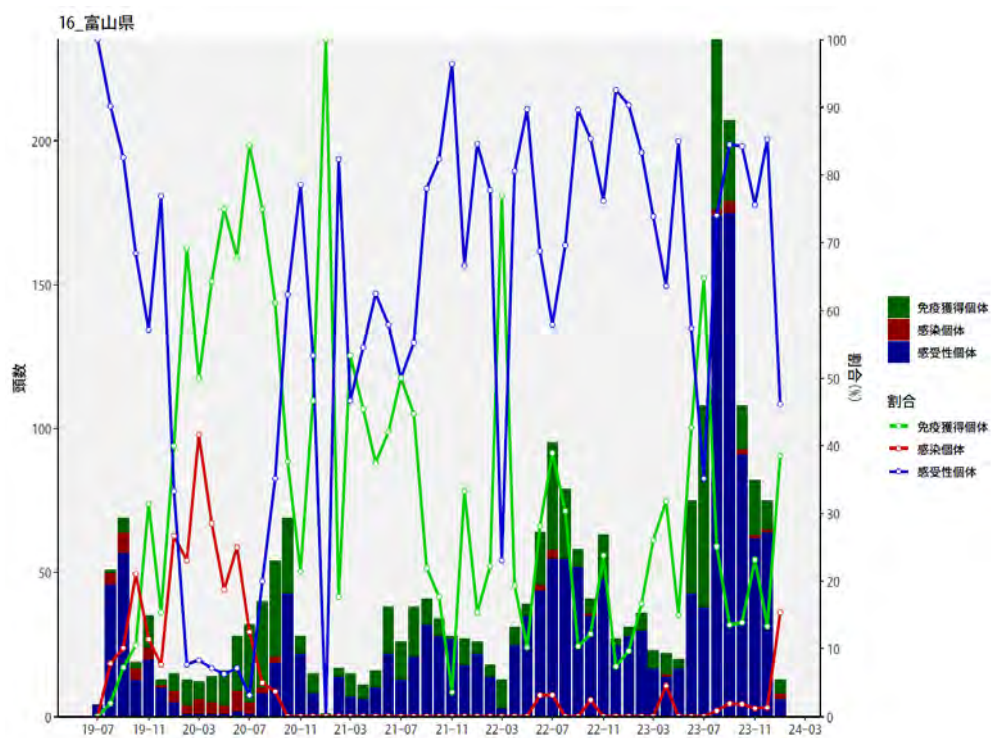
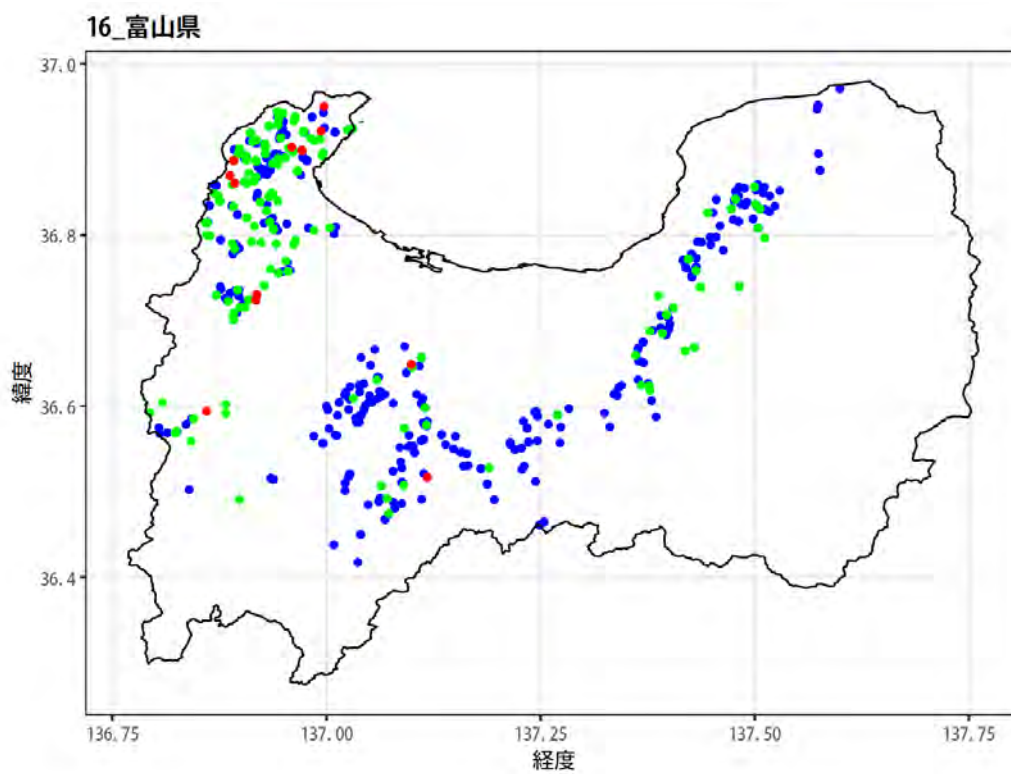


図 3-3-1-c 富山県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-3-2 石川県

石川県では、2019 年 8 月に南部の白山市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、同年 8 月からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。

感染個体は、ほぼ毎月 1～9 頭が確認されている。2021 年 8 月以降、PCR 陽性割合は、10%以下で推移していたが、2023 年 12 月はやや増加し、12%となっている（図 3-3-2-a）。

免疫獲得個体の割合は 2020 年 7 月に 65%に達した。2022 年 1 月～2023 年 12 月にかけて、免疫獲得個体の割合は約 10～43%で、感受性個体の割合は 57～89%で推移している（図 3-3-2-b）。感受性個体、感染個体、及び免疫獲得個体は、北部から南部にかけて分布している（図 3-3-2-c）。

図 3-3-2-a 石川県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

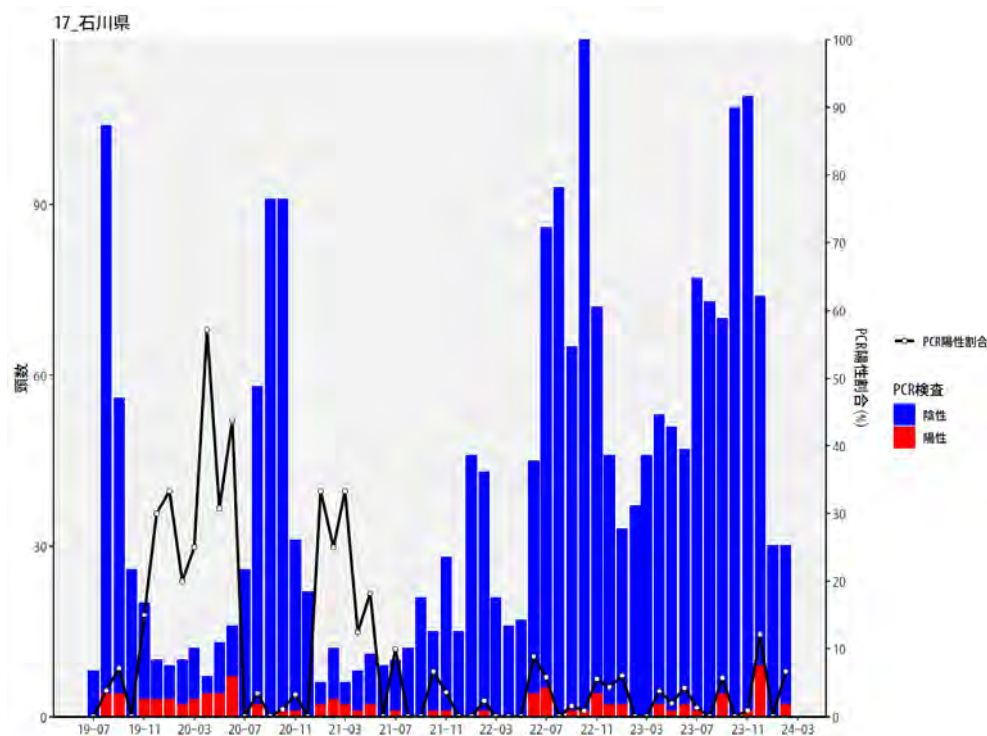


図 3-3-2-b 石川県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

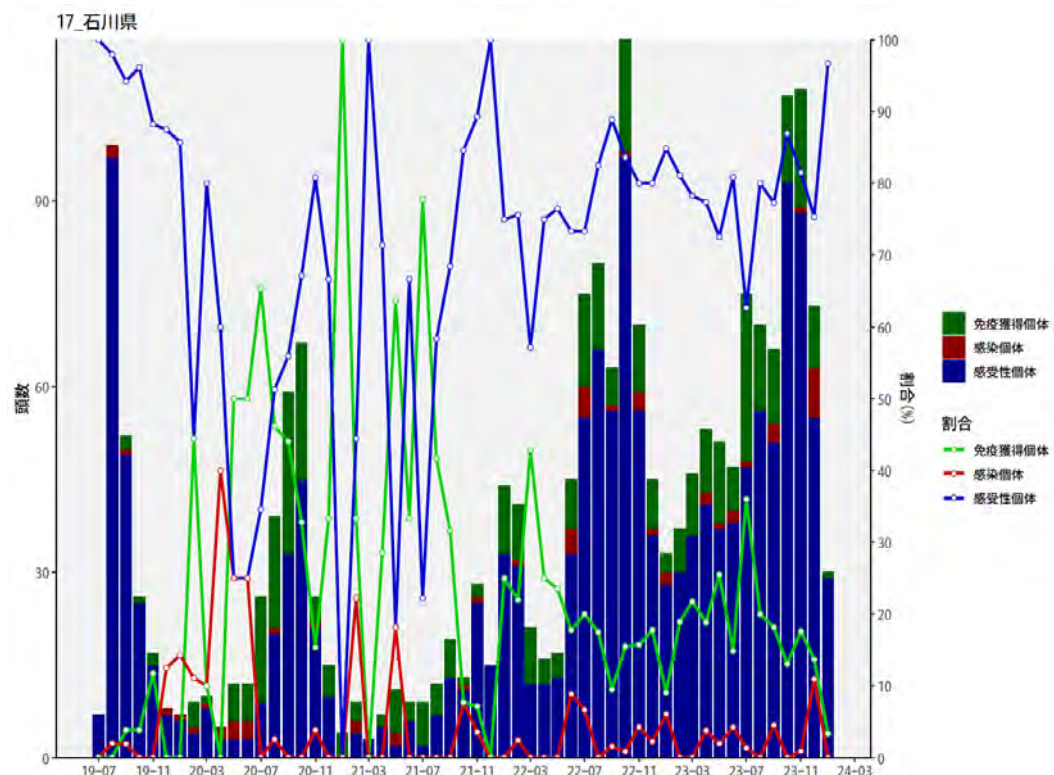
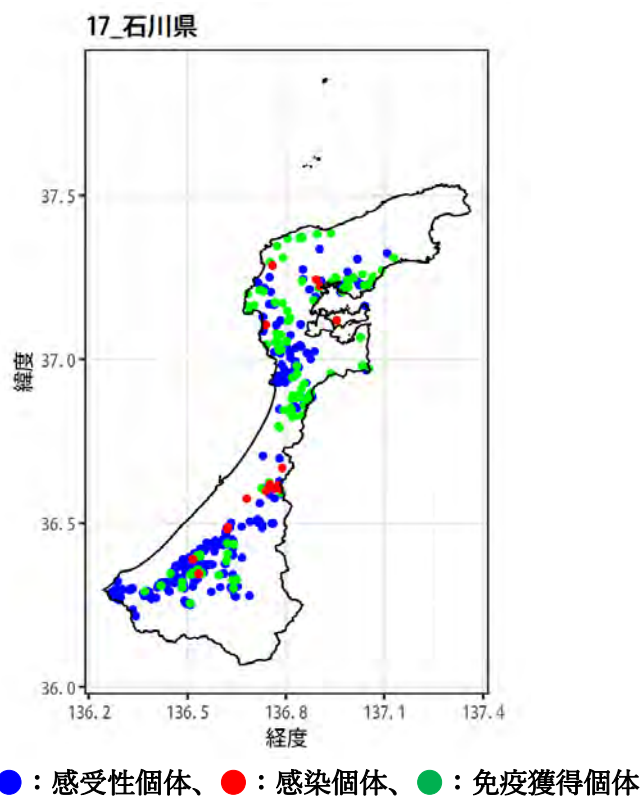


図 3-3-2-c 石川県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-3-3 福井県

福井県では、2019 年 6 月に東部の大野市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、同年 7 月からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。

感染個体は、2022 年 4 月までほぼ毎月 1～15 頭確認されていた。2022 年 5～8 月は感染個体は確認されなかったが、同年 9 月以降はほぼ毎月 1～7 頭の感染個体が確認されており、2023 年 10 月以降は PCR 陽性割合は 10～16%程度にやや増加している（図 3-3-3-a）。

検査個体が少ない時期があり、変動があるものの、2023 年 5～12 月にかけて、免疫獲得個体の割合は約 14～50%で、感受性個体の割合は約 43～78%で推移している（図 3-3-3-b）。感受性個体、感染個体、免疫獲得個体ともに、東部、西部、及び南部で確認されている（図 3-3-3-c）。

図 3-3-3-a 福井県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

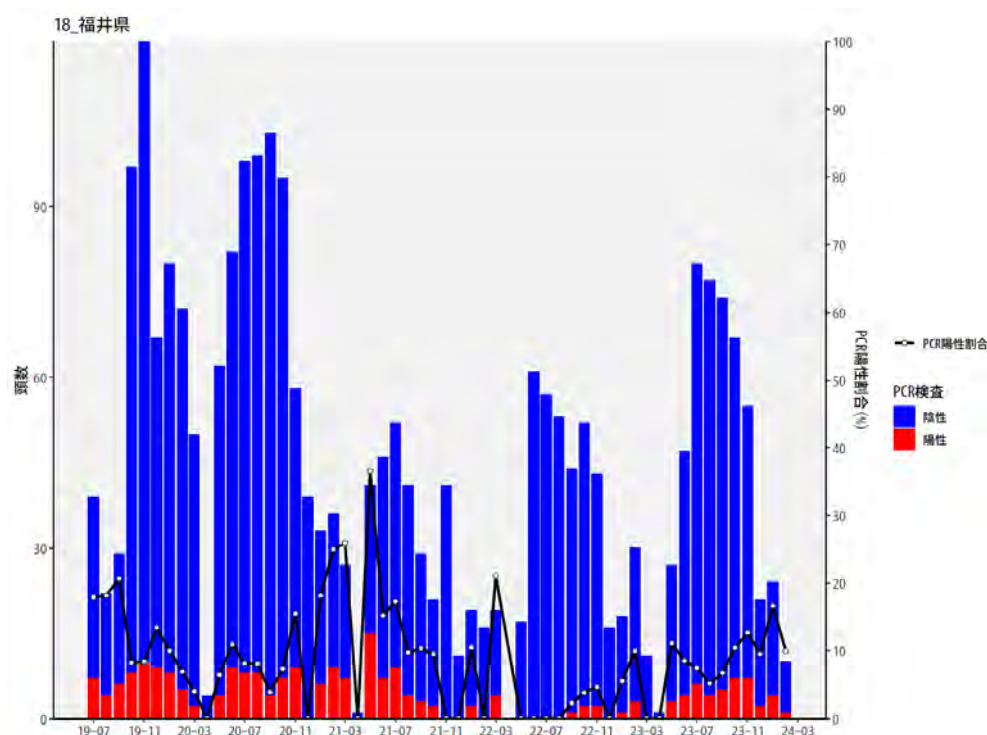


図 3-3-3-b 福井県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

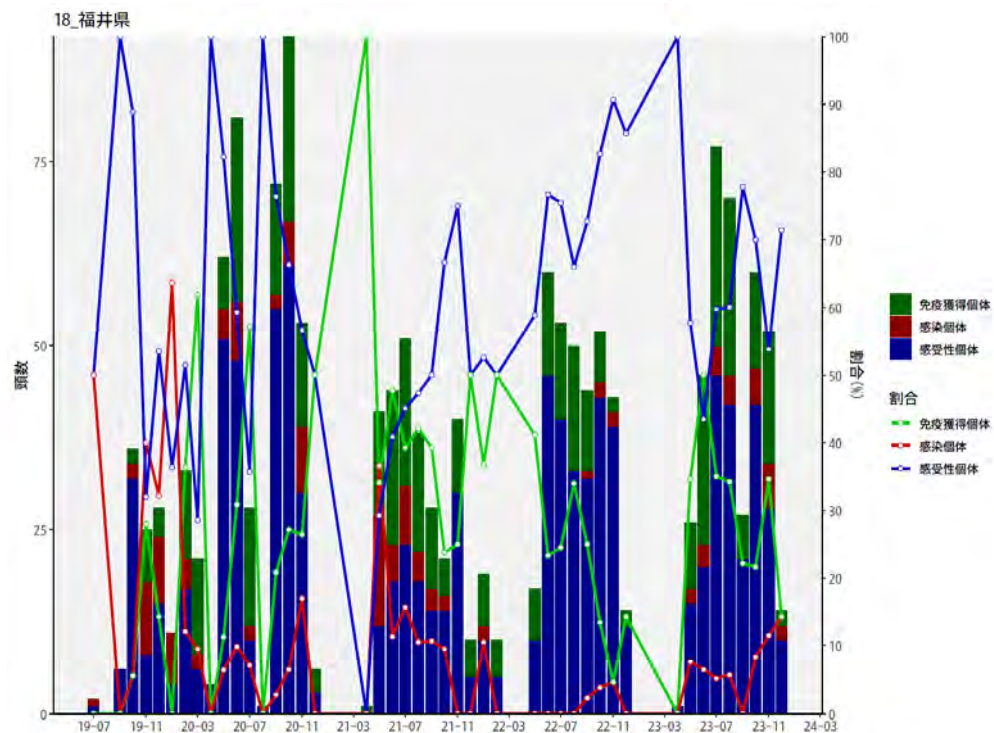
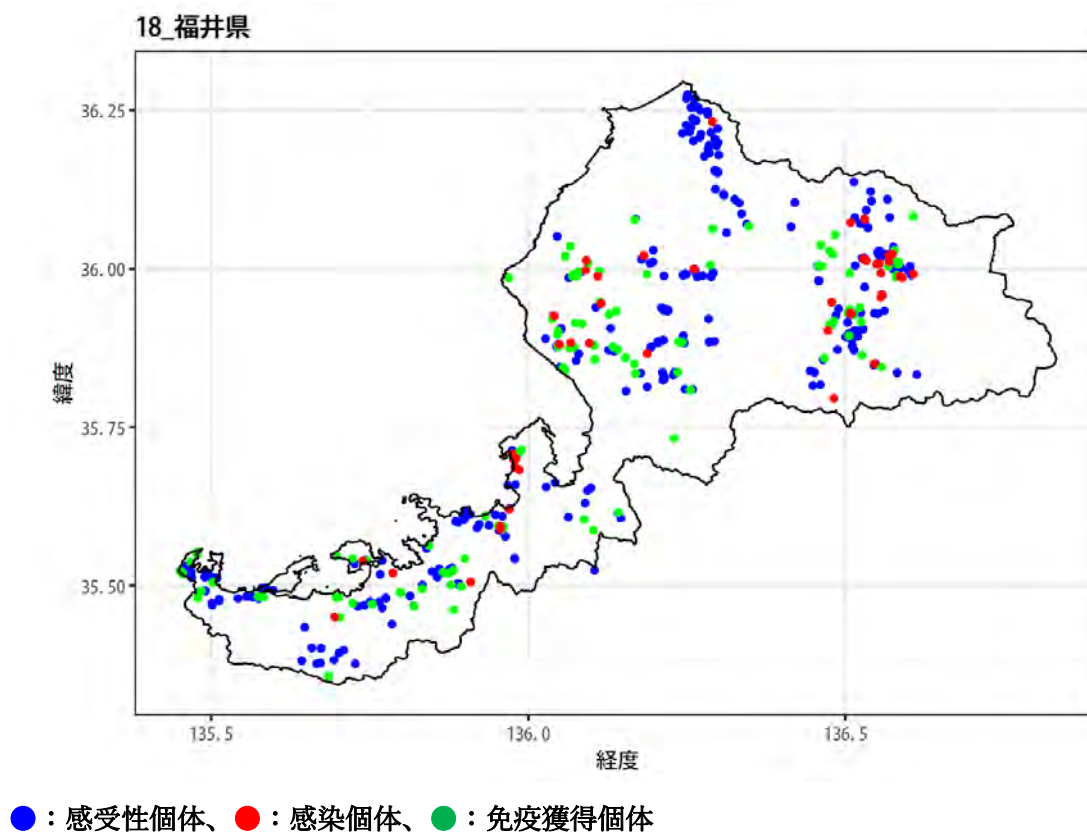


図 3-3-3-c 福井県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-3-4 岐阜県

岐阜県では、2018 年 9 月に岐阜市でイノシシの豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、2019 年 3 月からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。当初、経口ワクチンは南部を中心に散布されていたが、現在では概ね県全域で散布されている。

2019 年 4 月時点では、PCR 陽性頭数は 149 頭、PCR 陽性割合は約 79%であったが、その後、感染は減少した（図 3-3-4-a）。2020 年 4 月以降、感染頭数は 10 頭以下となり、PCR 陽性割合も 10%を下回り、2022 年 9 月までは感染頭数、感染割合ともに低い水準を維持していた。2022 年 10 月以降、感染頭数が増加し、2023 年 2～5 月にかけて感染割合が 14～26%に上昇した。その後、感染はやや減少したものの、同年 12 月から感染が再び増加傾向にあり、2024 年 1 月と 2 月の PCR 陽性割合は 23%と 14%となっている。感染は東部から南東部にかけてやや多く確認され、中部と西部でも確認されている（図 3-3-4-c）。

免疫獲得個体の割合は、2019 年 4 月以降、徐々に増加し、2020 年 3～7 月にかけて 60～70%に達した。その後、免疫獲得個体の割合は減少し、2020 年 9 月～2021 年 5 月は 26～37%で推移していた。同年 6～8 月にやや増加したものの、その後は減少し、2021 年 9 月以降、免疫獲得個体の割合は、約 10～40%で、感受性個体の割合は約 50～85%で推移している（図 3-3-4-b）。感受性個体と免疫獲得個体は、県内で広く分布している（図 3-3-4-c）。

また、成獣・幼獣別に、感受性個体、感染個体、及び免疫獲得個体の推移を分析した。成獣については、免疫獲得個体の割合は、2019 年 4 月以降、徐々に増加し、2019 年 10 月～2020 年 9 月は約 60～80%に達した。その後、2020 年 7 月以降は、変動はあるものの減少傾向にあり、2021 年 9 月以降、免疫獲得個体の割合は約 16～43%で、感受性個体の割合は、約 50～80%で推移している（図 3-3-4-d）。また、2023 年 12 月～翌年 2 月は感染個体の割合が増加し、10～20%となっている。

幼獣については、2020 年 6～8 月（44～86%）、2021 年 6～8 月（28～72%）、2022 年 5～7 月（31～53%）、2023 年 6～8 月（15～44%）に、免疫獲得個体の一時的な増加が確認されたが、ピーク時の割合は徐々に減少している（図 3-3-4-e）。これ以外の時期は、感受性割合が高く、2022 年 8 月～2023 年 1 月は約 80～95%で推移していた。2023 年 2 月以降は感染個体の割合が増加し、2.5～31%となっていた。

図 3-3-4-a 岐阜県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

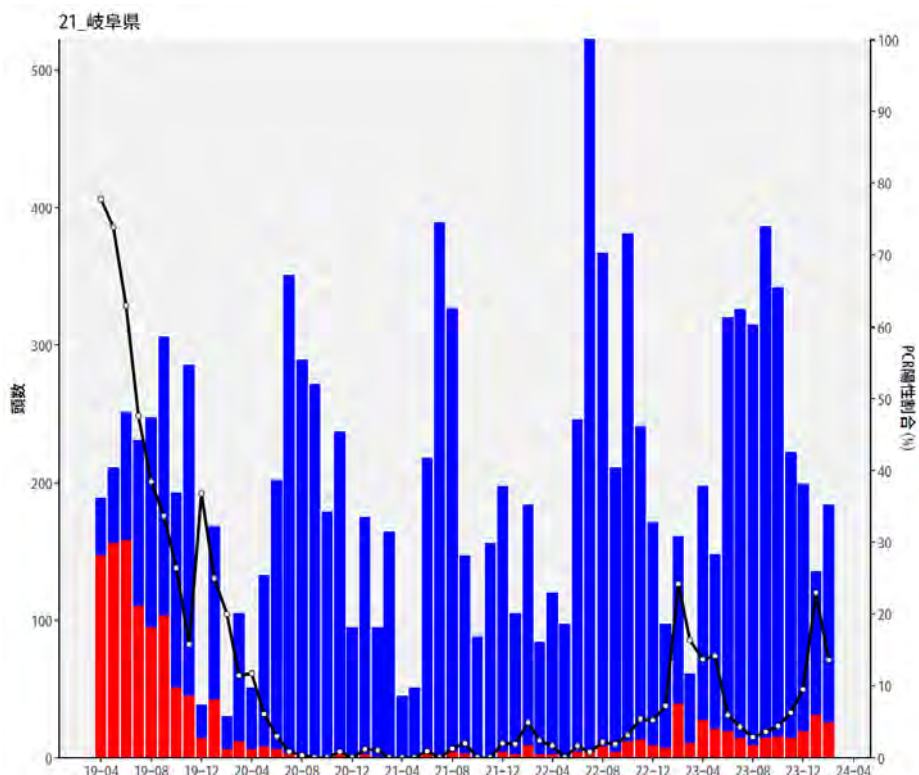


図 3-3-4-b 岐阜県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

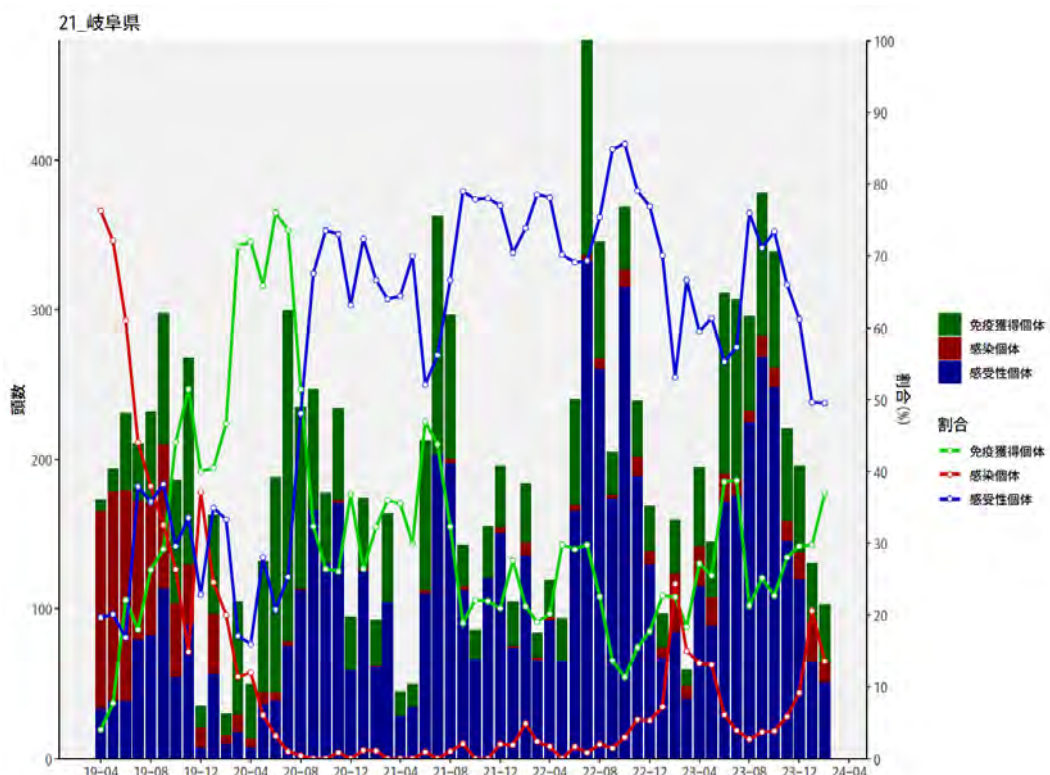
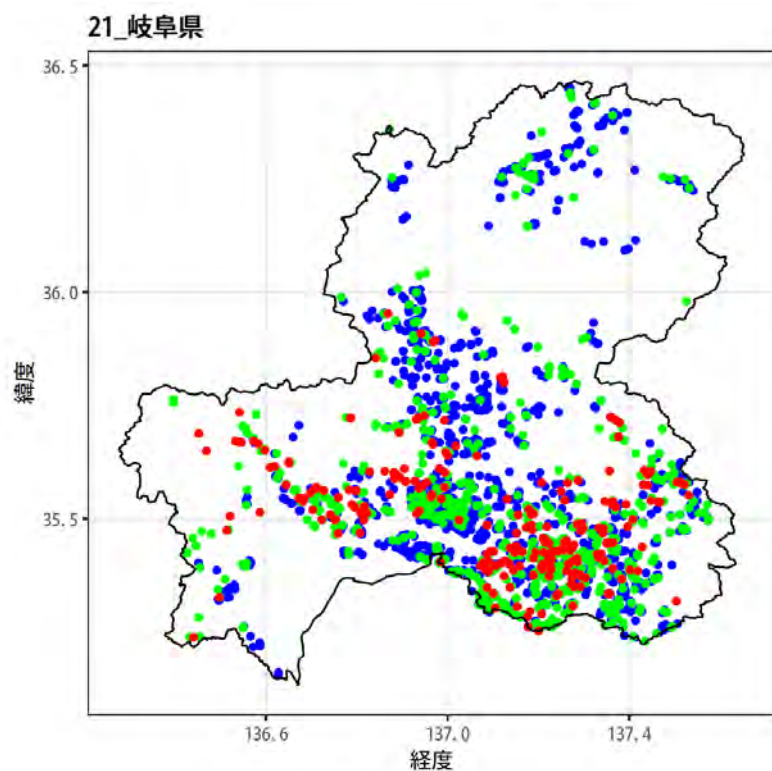


図 3-3-4-c 岐阜県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

図 3-3-4-d 岐阜県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移（成獣）

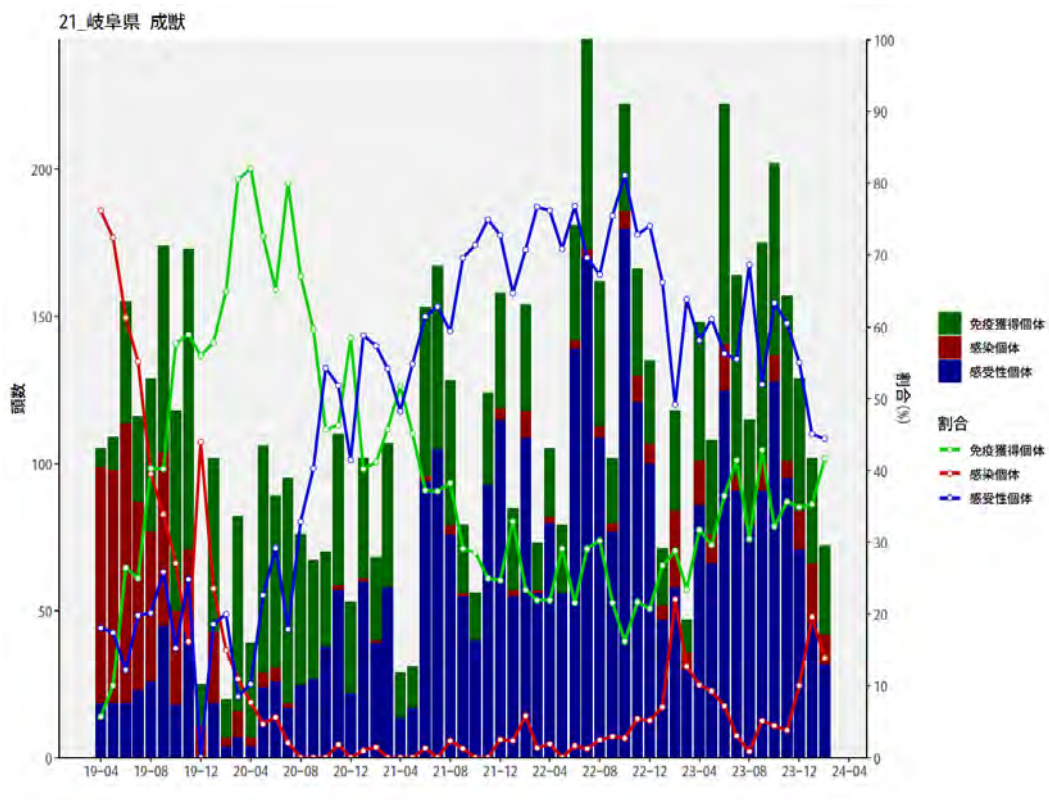
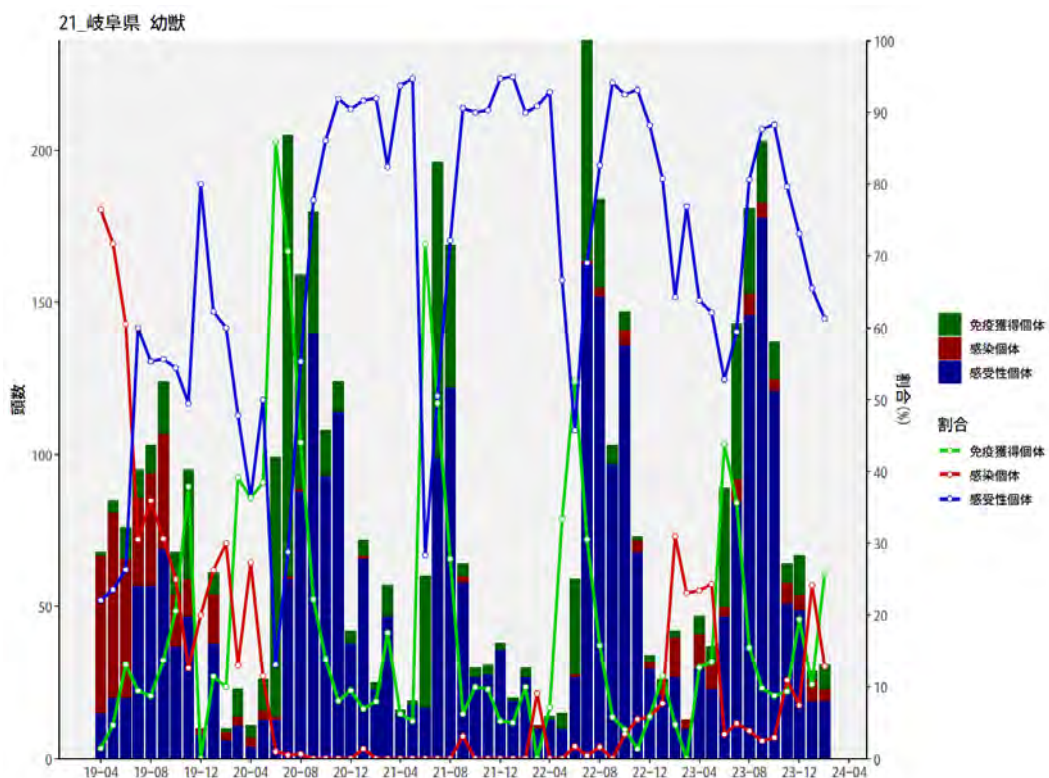


図 3-3-4-e 岐阜県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移（幼獣）



3-3-5 静岡県

静岡県では、2019年10月に中部の藤枝市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。同年9月には、西部の浜松市を中心にイノシシの経口ワクチンの散布が開始され、現在では概ね県全域で経口ワクチンの散布が行われている。

感染確認後、2020年3月にPCR陽性割合が27%に達したが、2020年8月以降は感染頭数は毎月1～20頭、PCR陽性割合は10%以下で推移している（図3-3-5-a）。

2020年5月以降、免疫獲得個体の割合は13～37%で推移していたが、2023年2月以降、免疫獲得個体の割合はやや増加し、25～50%で推移している（図3-3-5-b）。感受性個体の割合はやや減少し、46～73%となっている。

感染個体は東部で多く確認されているほか、中部と西部でも確認されている。感受性個体と免疫獲得個体は西部から東部にかけて広く分布している（図3-3-5-c）。

図3-3-5-a 静岡県におけるPCR陽性頭数とPCR陽性割合の推移

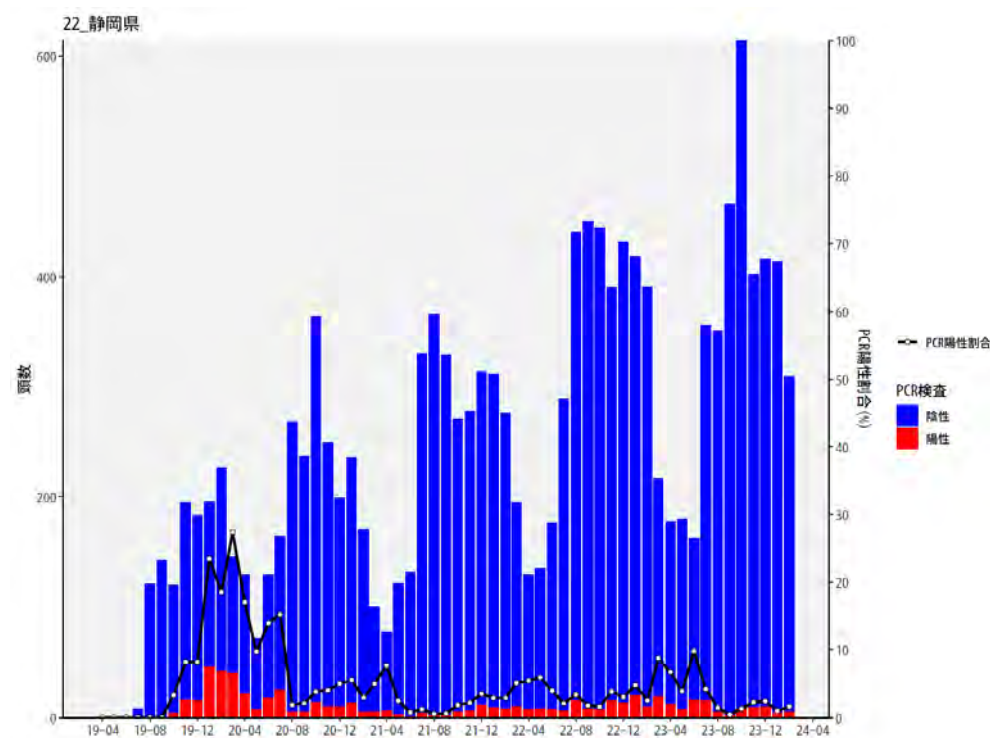


図 3-3-5-b 静岡県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

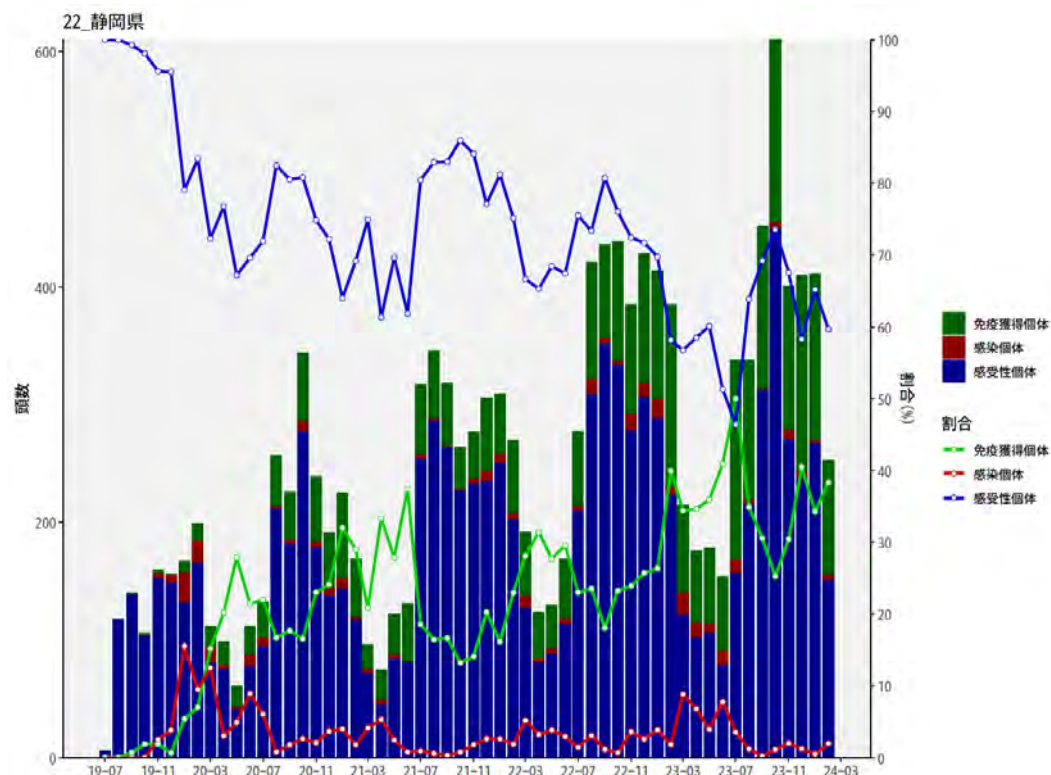
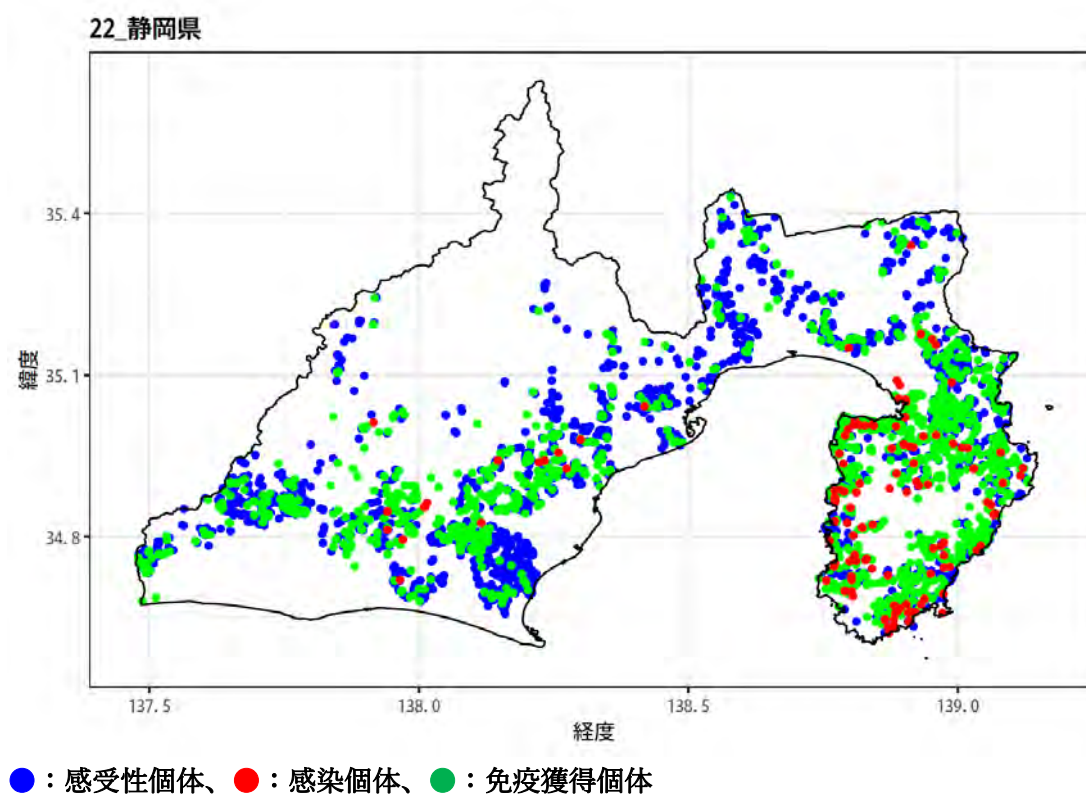


図 3-3-5-c 静岡県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-3-6 愛知県

愛知県では、2018 年 12 月に北部の犬山市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、2019 年 3 月下旬からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。当初、経口ワクチンは北部を中心に散布されていたが、現在では概ね県全域で散布されている。

感染確認以降、2020 年 10 月まで継続的に感染個体が確認されていた。その後、感染個体は確認されていなかったが、2021 年 10 月に 1 年ぶりに感染が確認されて以降、ほぼ毎月 1～6 頭の感染個体が確認されている。2023 年 1～2 月に PCR 陽性割合が 11～16%に上昇したものの、その後は 10%以下で推移している。(図 3-3-6-a)。

免疫獲得個体の割合は、2019 年 4 月以降、徐々に増加し、検査頭数はやや少ないものの、2020 年 4～6 月に約 60～90%に達した。2020 年 8 月以降、免疫獲得個体の割合はやや減少し、約 10～50 %で、感受性個体の割合は 45～87%で推移している (図 3-3-6-b)。

感染個体は北部から中部にかけて分布している。感受性個体と免疫獲得個体は北部から南部にかけて広く分布している (図 3-3-6-c)。

図 3-3-6-a 愛知県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

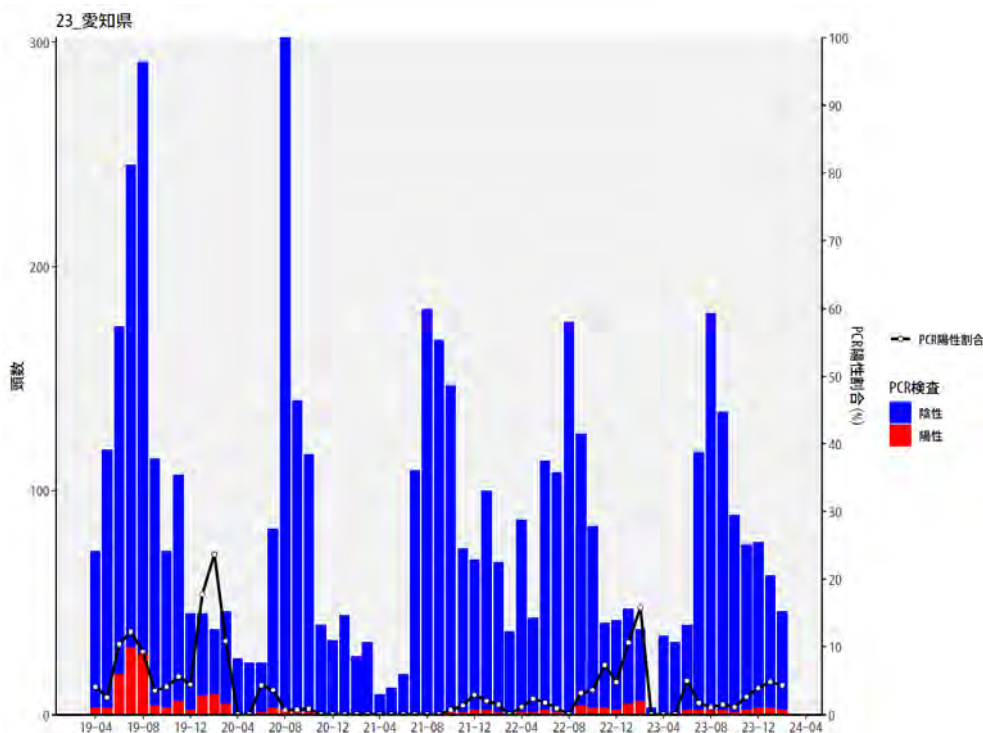


図 3-3-6-b 愛知県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

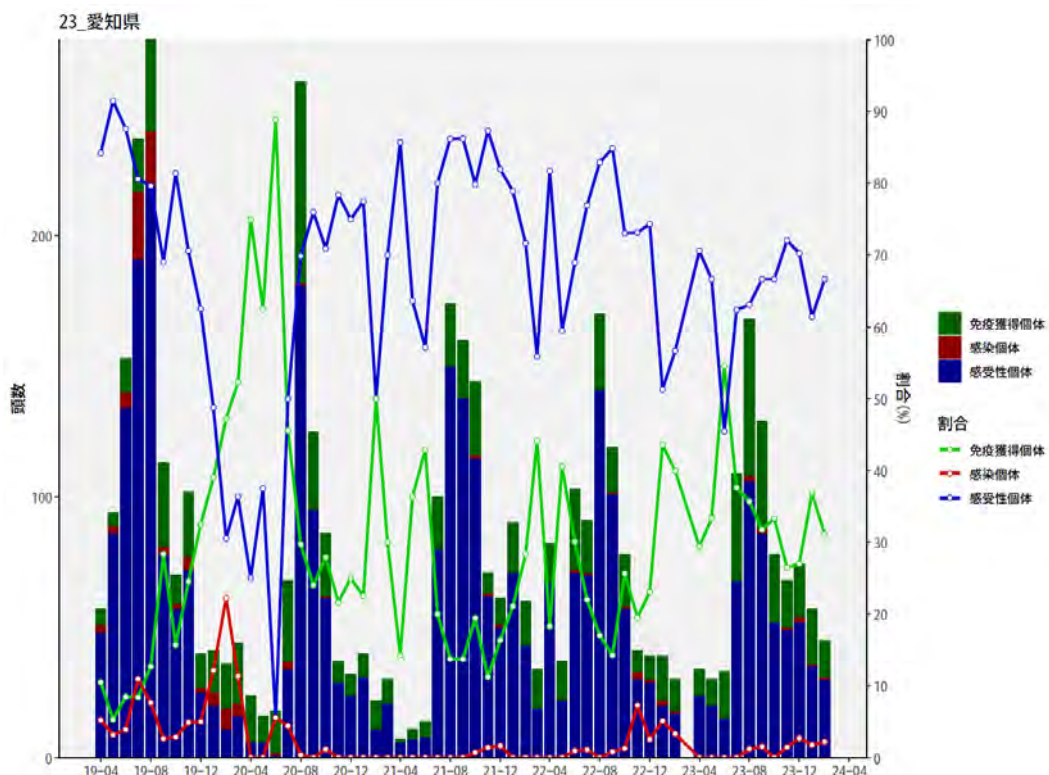
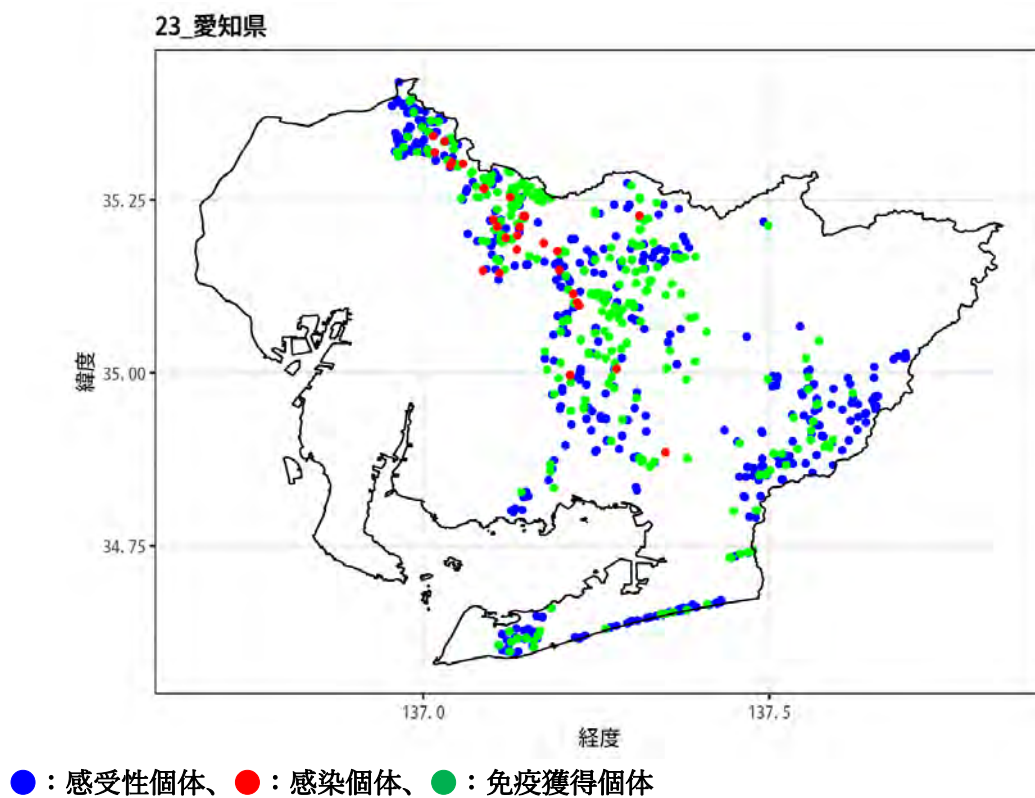


図 3-3-6-c 愛知県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-4 近畿地方

3-4-1 三重県

三重県では、2019年6月に北部のいなべ市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、同年7月から北部を中心にイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。現在では、中部から南部にかけてもワクチン散布が行われている。

感染確認以降、感染個体は継続的に確認されている。2021年4月～2022年6月にかけて、感染個体は毎月6～54頭確認されており、PCR陽性割合は約2～11%で推移していた（図3-4-1-a）。2022年7月～2023年12月にかけて、PCR陽性割合は約5%以下に低下し、感染個体の頭数は毎月1～23頭で推移している。

当初、三重県では、感受性個体の割合が高く、80～90%台で、免疫獲得個体の割合は10%前後で推移していた。その後、免疫獲得個体の割合が増加し、変動はあるものの、2021年1月以降は免疫獲得個体の割合が14～47%で、感受性個体の割合は47～82%推移している（図3-4-1-b）。

感染個体は中部と東部でやや多く確認されており、北部、西部、南部でも確認されている。感受性個体と免疫獲得個体は県内で広く分布している（図3-4-1-c）。

図3-4-1-a 三重県におけるPCR陽性頭数とPCR陽性割合の推移

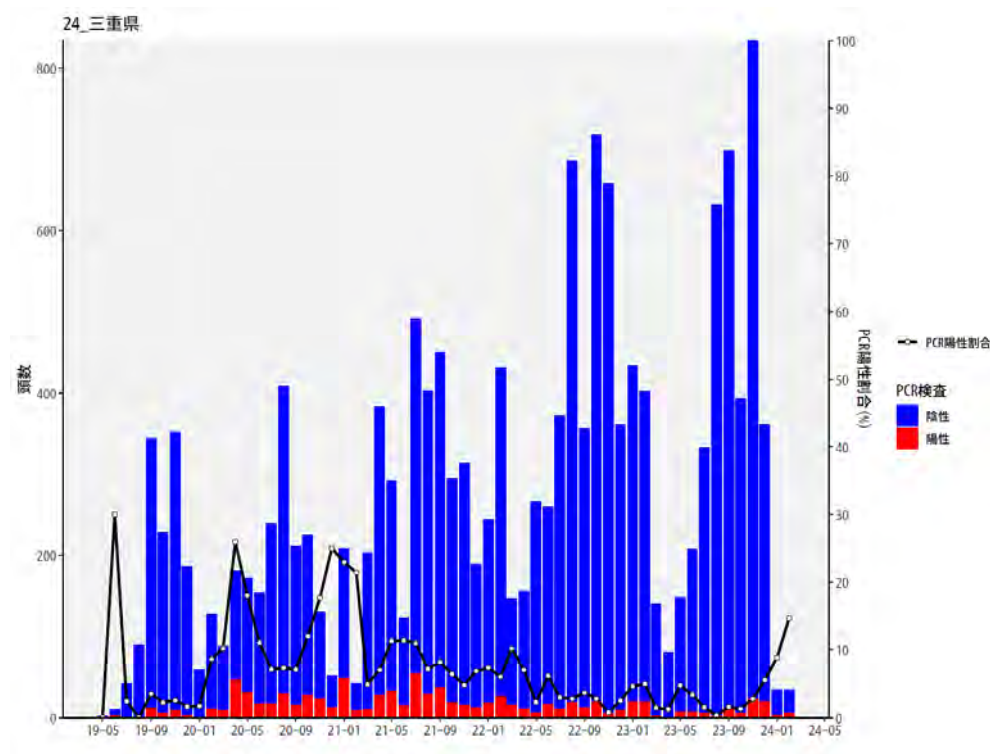


図 3-4-1-b 三重県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

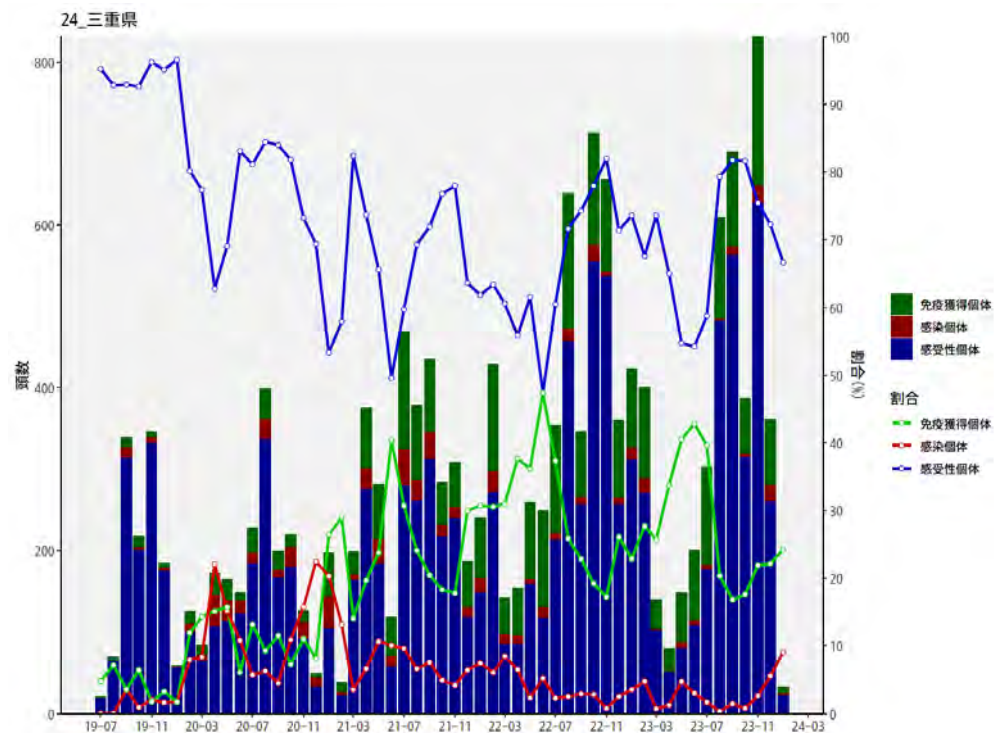
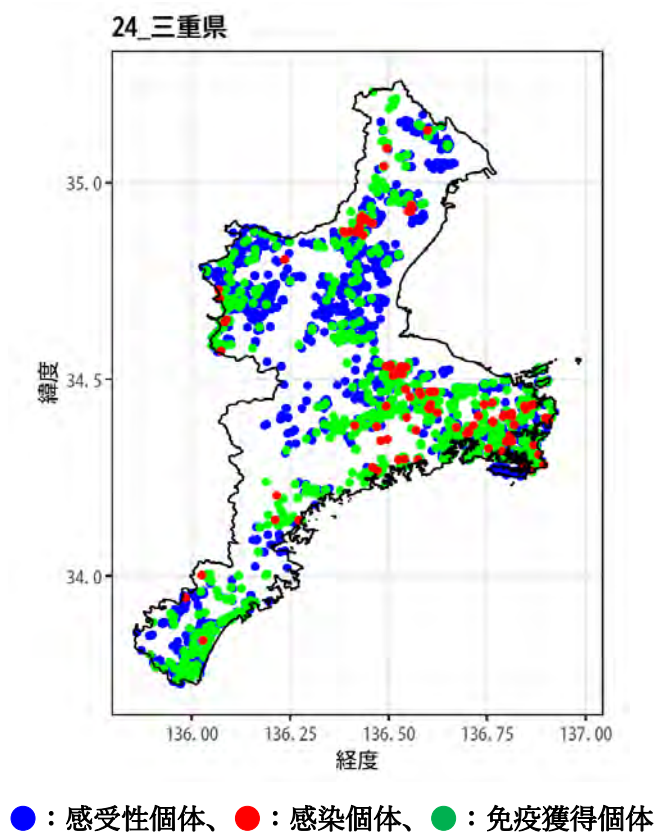


図 3-4-1-c 三重県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-4-2 滋賀県

滋賀県では、2019 年 9 月に東部の多賀町で豚熱の感染事例が初めて見つかった。その後、同年 9 月からイノシシの経口ワクチンの散布が開始された。

感染確認以降、2020 年 3 月までは感染個体が毎月約 10～50 頭が確認され、PCR 陽性割合は 16～40%で推移していた。2020 年 4 月以降は、感染個体数と PCR 陽性割合はやや減少したものの、ほぼ毎月感染が確認され、感染個体は 0～13 頭、PCR 陽性割合は 0～32%で推移している（図 3-4-2-a）。

免疫獲得個体の割合は、当初 10～15%で推移していたが、2020 年 11 月と 2021 年 5～6 月に一時的に 60%近くに増加した。その後、免疫獲得個体の割合はやや減少し、変動はあるものの、2021 年 7 月～2023 年 11 月にかけては概ね 7～50%で推移している。感受性個体の割合は概ね 40～90%で推移している（図 3-4-2-b）。

感染個体は主に北部と南東部で確認されている。感受性個体、免疫獲得個体ともに、県内で広く確認されている（図 3-4-2-c）。

図 3-4-2-a 滋賀県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

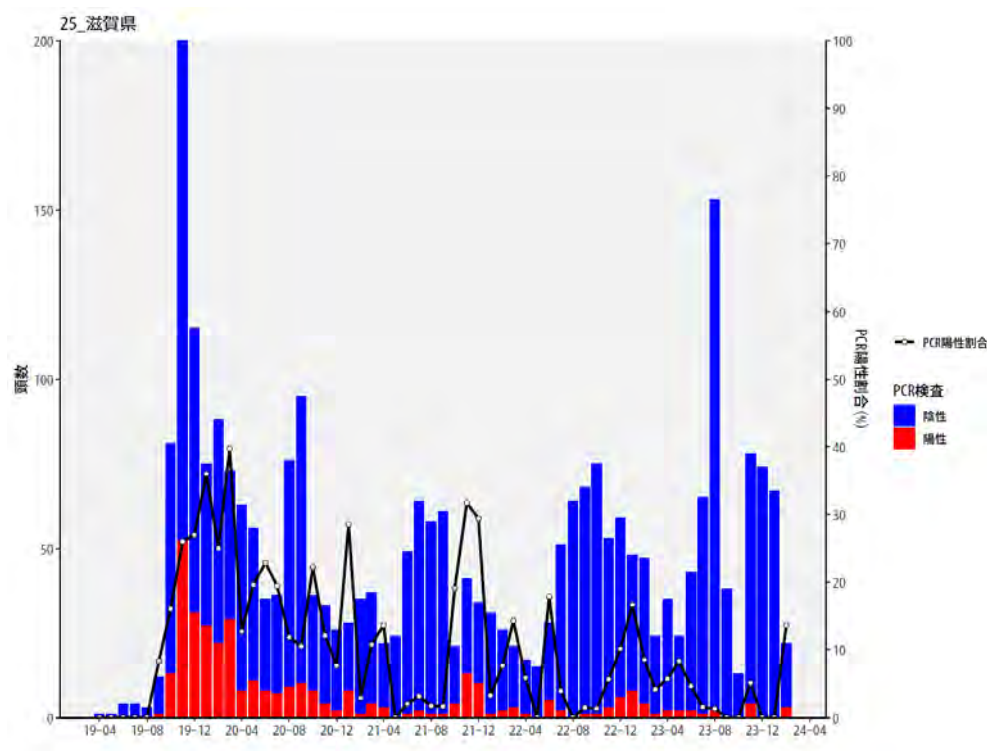


図 3-4-2-b 滋賀県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

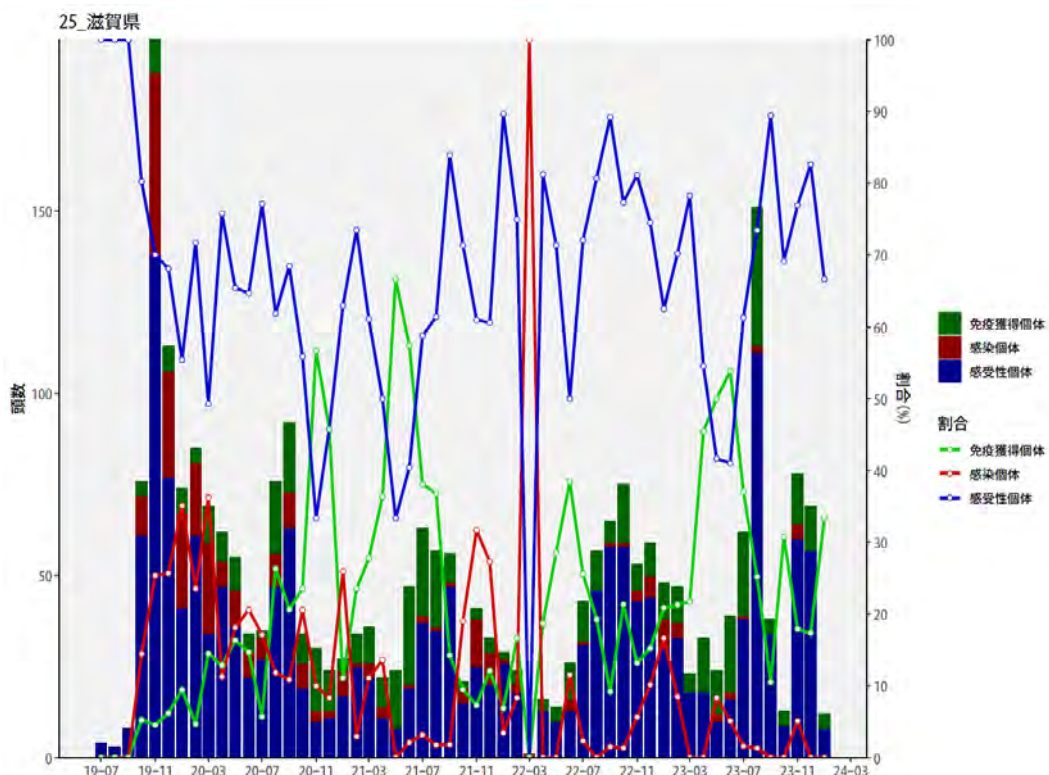
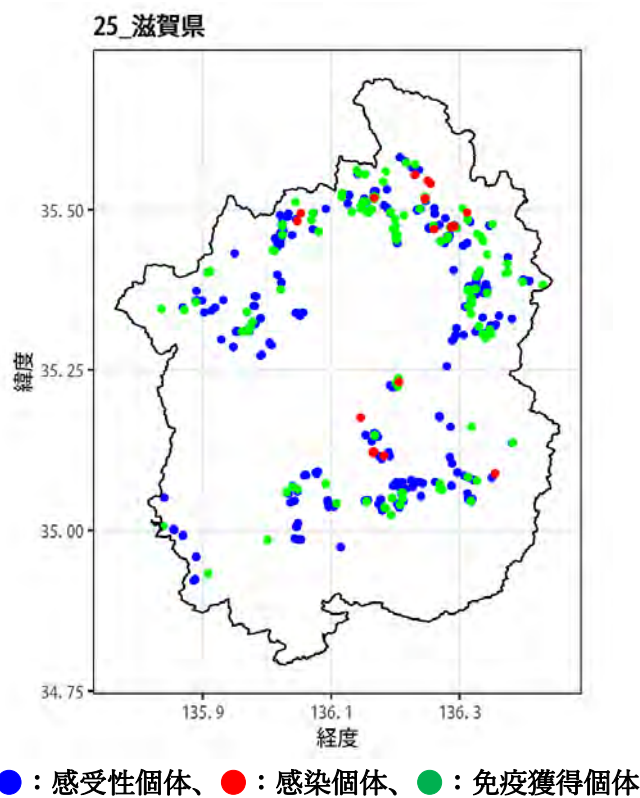


図 3-4-2-c 滋賀県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-4-3 京都府

京都府では、2020 年 4 月に南部の宇治田原町で豚熱の感染事例が初めて見つかった。イノシシへの経口ワクチン散布は、北部を中心に同年 2 月から開始された。

感染確認以降、2022 年 8 月までは、感染個体は、ほぼ毎月 1～15 頭確認されていた（図 3-4-3-a）。検査が行われていない月があるものの、2022 年 9 月以降は、感染個体は確認されていない。

免疫獲得個体の割合は、変動はあるものの、2021 年 2～10 月にかけて 5～26%で推移していた（図 3-4-3-b）。2022 年 1 月以降は検査頭数が少ないので、傾向は十分に把握できないが、2023 年 7 月と 8 月の免疫獲得個体の割合は、それぞれ 55%（6/11 頭）と 38%（6/11 頭）であり、9 月（14 頭）と 10 月（15 頭）は全て感受性個体だった。

免疫獲得個体は北部から中部にかけて、感受性個体は北部から南部にかけて確認されている（図 3-4-3- c）。

図 3-4-3-a 京都府における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

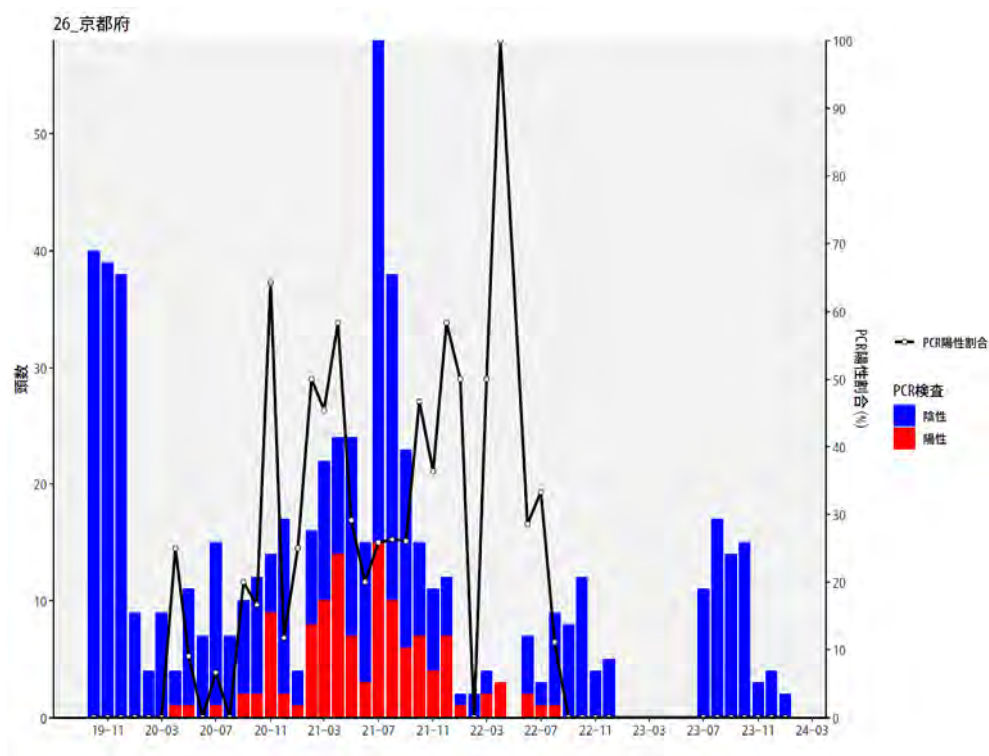


図 3-4-3-b 京都府における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

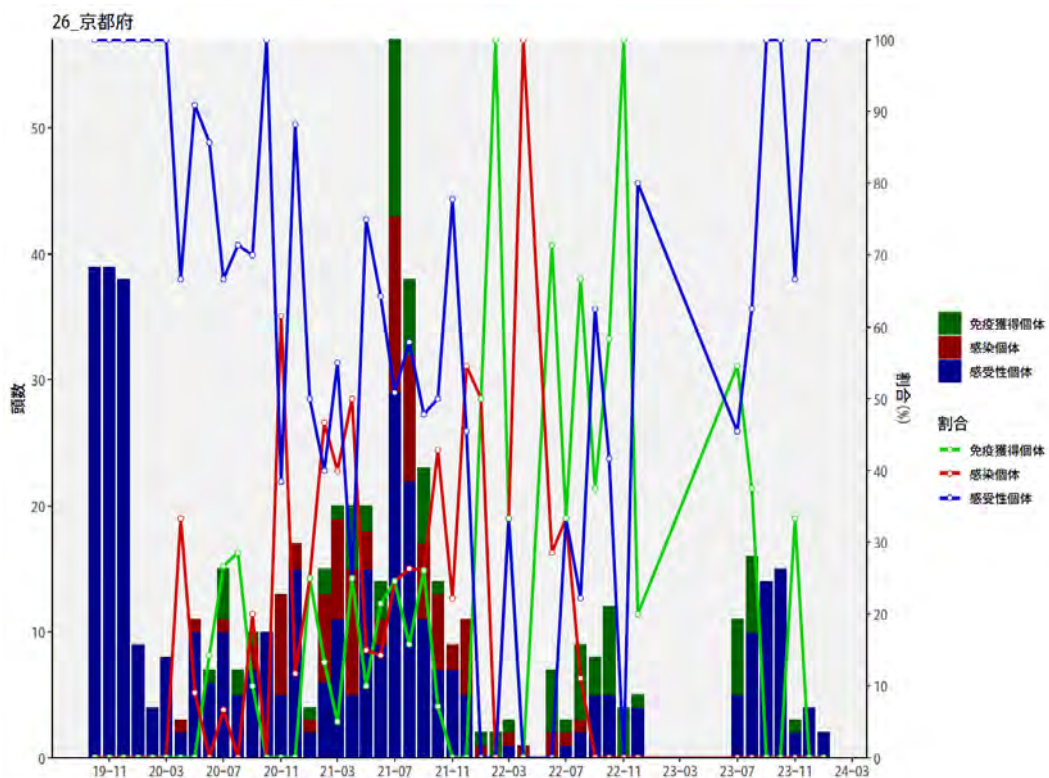
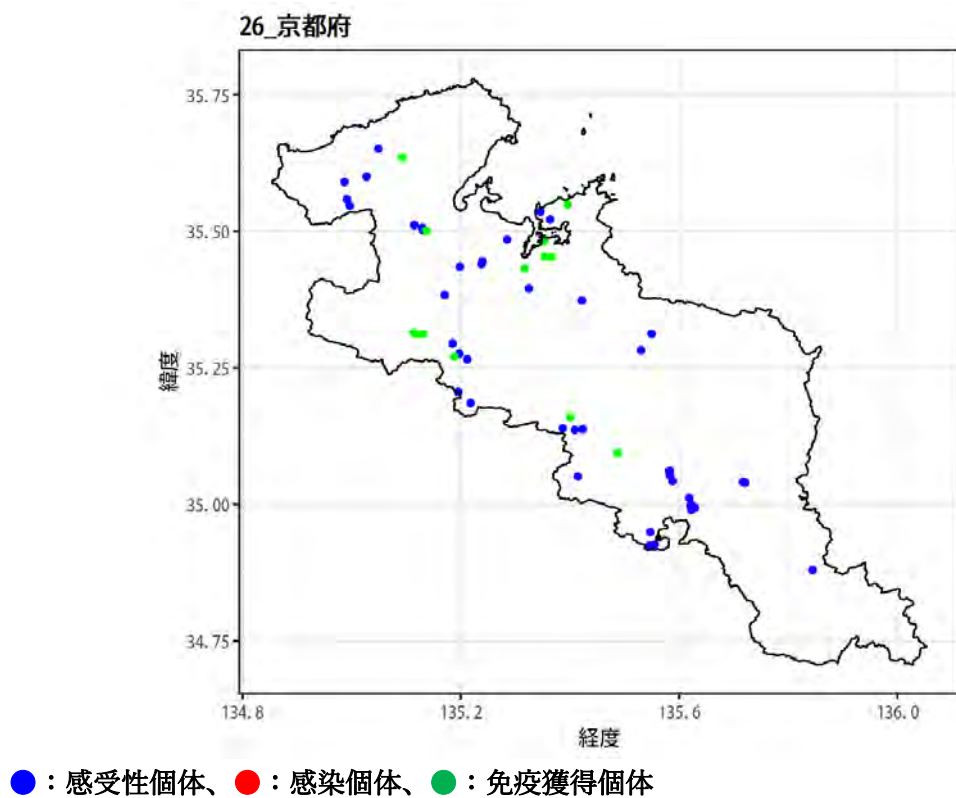


図 3-4-3-c 京都府におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-4-4 大阪府

大阪府では、2020 年 10 月に北部の茨木市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。イノシシへの経口ワクチン散布は、北部を中心に同年 10 月から開始された。

感染確認以降、2021 年 11 月までに感染個体はほぼ毎月 1～4 頭確認されていた。その後、2021 年 12 月以降、感染個体は確認されていなかったが、2023 年 6 月に 1 年 7 ヶ月ぶりに北部で感染個体が確認された（図 3-4-4-a, 図 3-4-4-c）。免疫獲得個体は、2022 年 8 月に 1 年 8 ヶ月ぶりに確認され、それ以降、毎月 1～4 頭確認されている（図 3-4-4-b）。免疫獲得個体は、北部、東部、及び南部で確認されている（図 3-4-4-c）。

図 3-4-4-a 大阪府における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

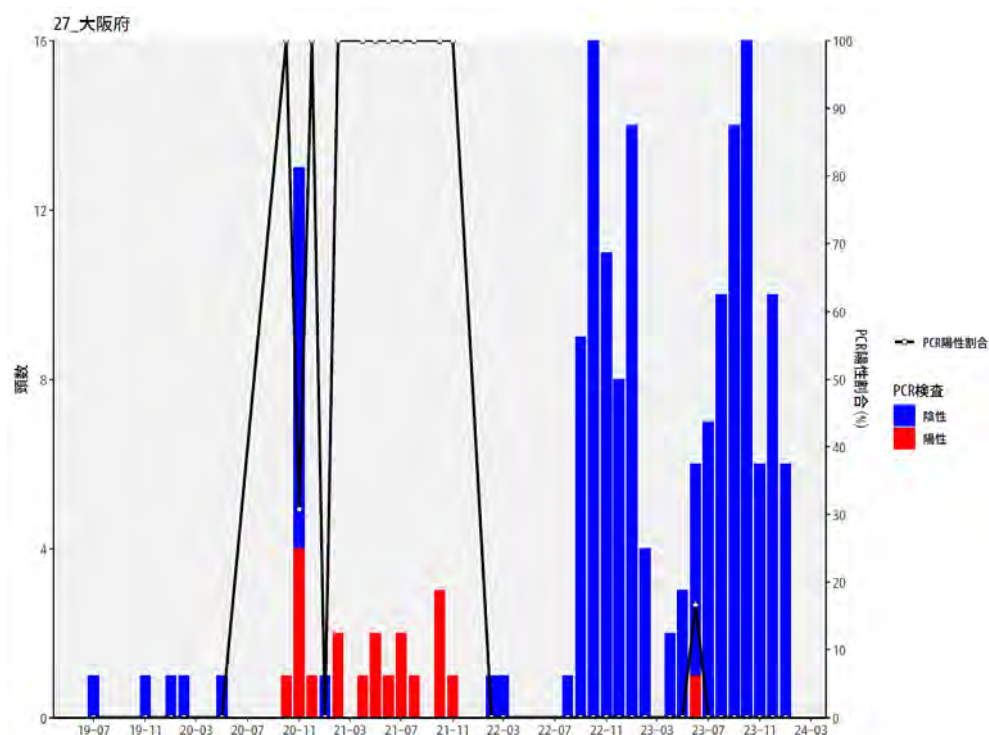


図 3-4-4-b 大阪府における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

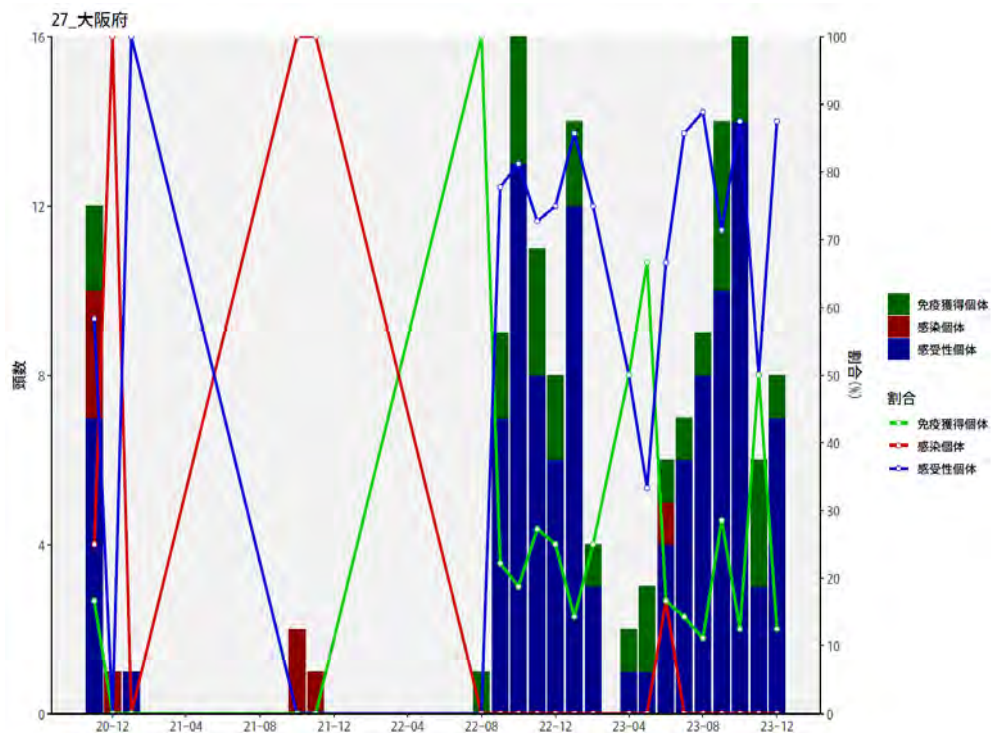
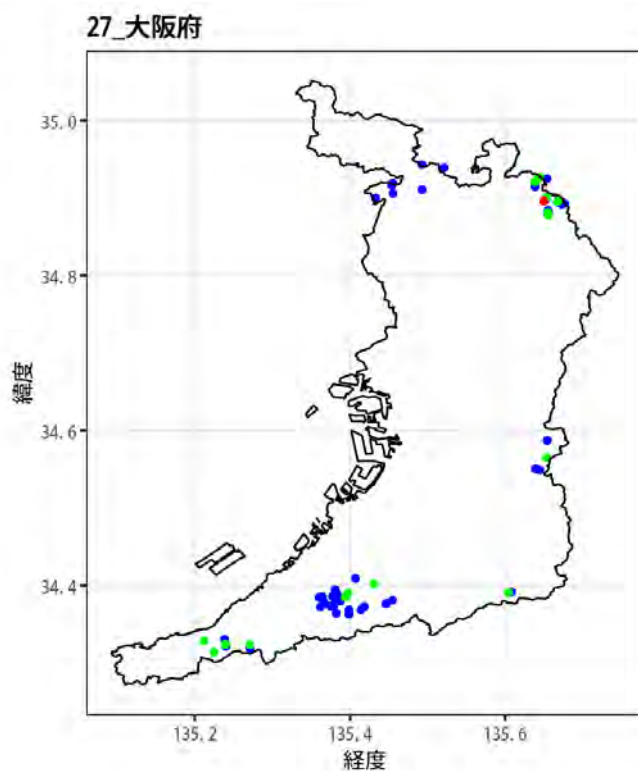


図 3-4-4-c 大阪府におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-4-5 兵庫県

兵庫県では、2021 年 3 月に東部の丹波市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。同年 7 月には淡路島でも感染個体が確認された。イノシシへの経口ワクチン散布は、北部から東部を中心に 2020 年 10 月から開始された。

感染確認以降、感染個体はほぼ毎月 1～13 頭が確認されている。2023 年 6 月以降、PCR 陽性割合は 10%以下で推移している（図 3-4-5-a）。

免疫獲得個体は概ね 10%以下で推移していたが、その後増加し、2022 年 1～7 月にかけては、36～50%で推移していた。その後、やや減少したものの、2022 年 8 月以降は 12～40%で推移している（図 3-4-5-b）。感受性個体の割合は 55～86%で推移している。

感染個体は中部から南部を中心に確認されているほか、北部や東部、淡路島でも確認されている。免疫獲得個体は、北東部と東部、南部、淡路島で確認されている（図 3-4-5-c）。

図 3-4-5-a 兵庫県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

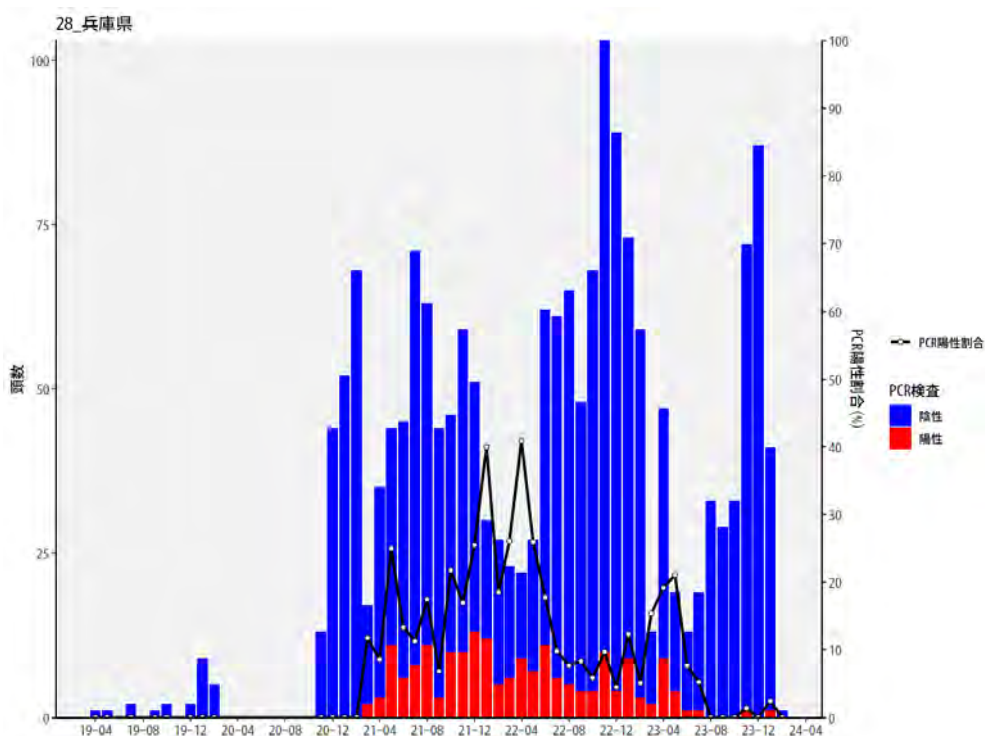


図 3-4-5-b 兵庫県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

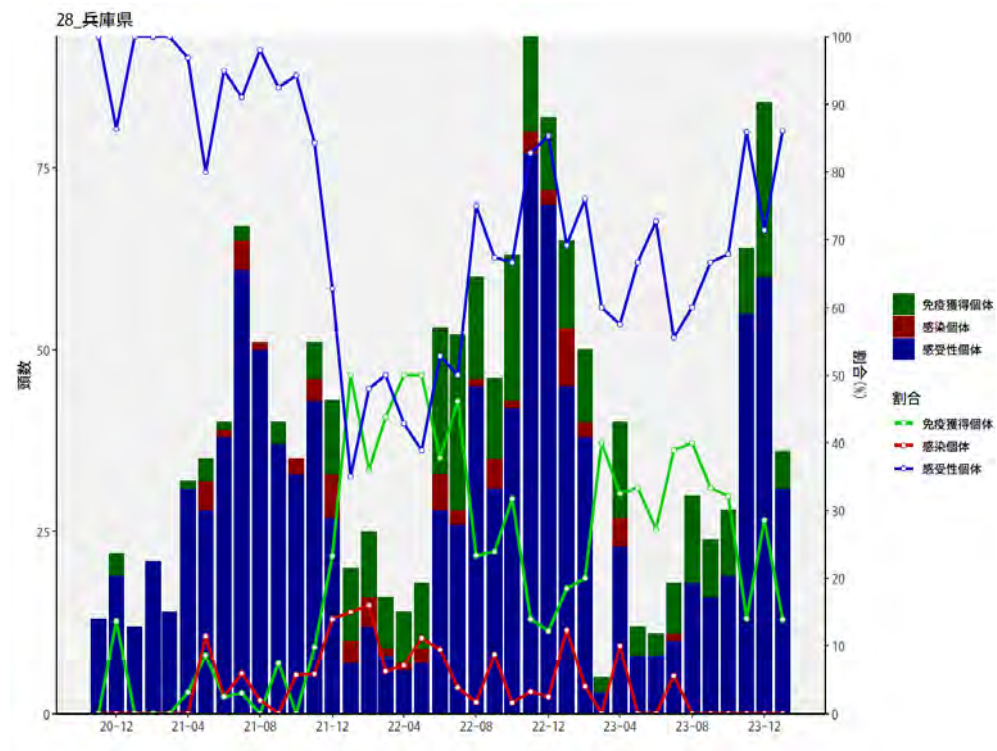
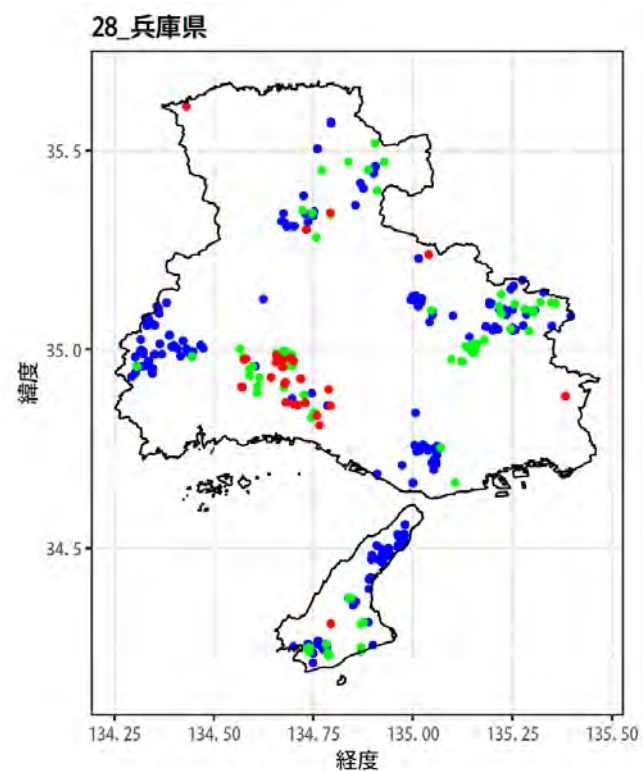


図 3-4-5-c 兵庫県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-4-6 奈良県

奈良県では、2020 年 10 月に北部の奈良市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。イノシシへの経口ワクチン散布は、北部を中心に同年 6 月から開始された。

感染確認以降、2021 年 9 月までに、感染個体はほぼ毎月 1～10 頭が確認されていた。その後、感染個体の確認は散発的なものとなっている。2023 年 3 月以降は、6 頭の感染個体が確認されている（図 3-4-6-a）。

免疫獲得個体の割合は、2022 年 4 月以降は、2022 年 6 月と 2023 年 7 月に一時的な増加が見られたものの、概ね 10～40%で推移している（図 3-4-6-b）。感受性個体の割合は概ね 50～90%で推移している。感染個体は西部と北部で確認されている。感受性個体と免疫獲得個体は、北部から中部にかけて分布している（図 3-4-6-c）。

図 3-4-6-a 奈良県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

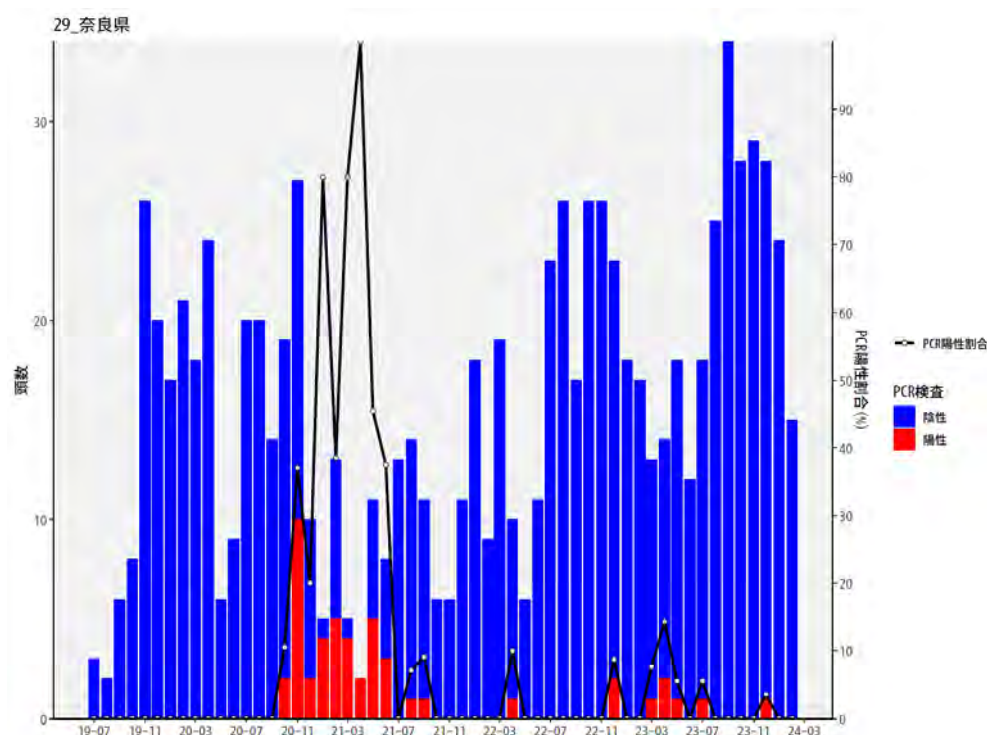


図 3-4-6-b 奈良県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

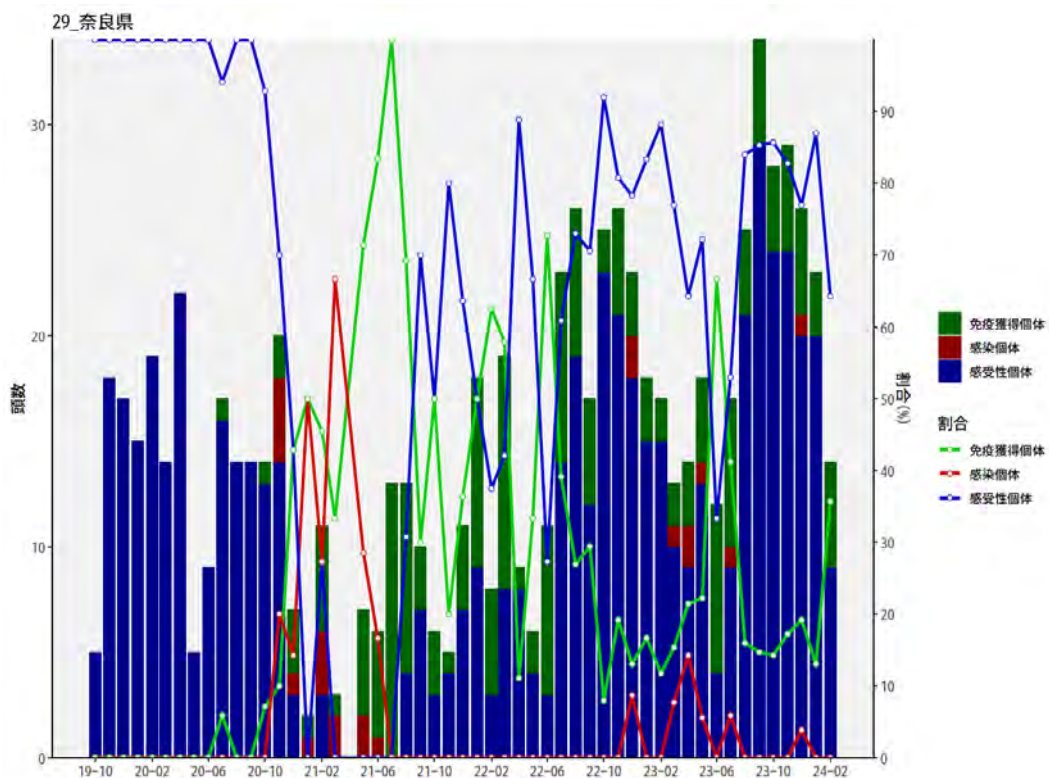
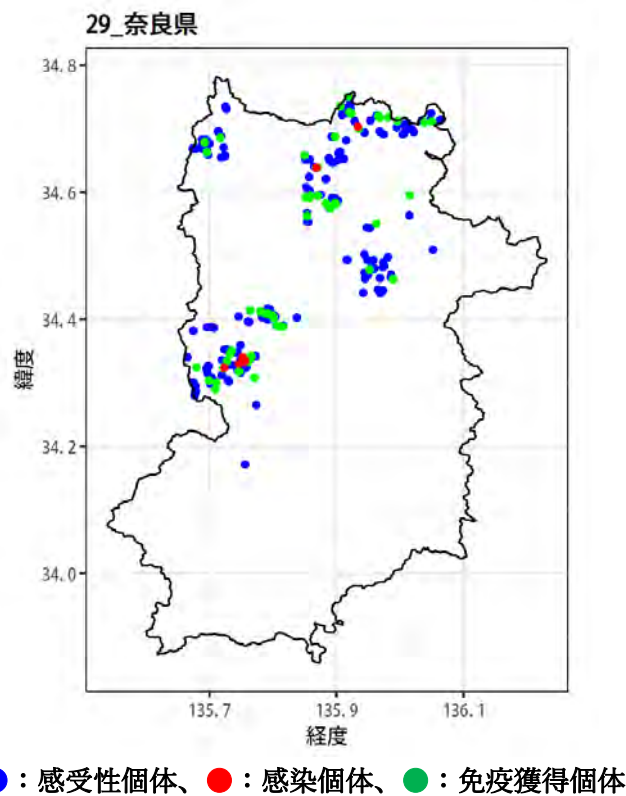


図 3-4-6-c 奈良県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-4-7 和歌山県

和歌山県では、2020 年 10 月に北部の紀の川市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。イノシシへの経口ワクチン散布は、北部を中心に同年 12 月から開始された。

感染確認以降、2022 年 2 月までに感染個体は、ほぼ毎月 1～15 頭確認されていた。（図 3-4-7-a）。2022 年 3 月以降、感染の確認は散発的となった。同年 8 月以降、感染個体は確認されていなかったが、2023 年 11 月に北部で 1 年 3 ヶ月ぶりに感染個体が確認された。

免疫獲得個体の割合は、2021 年 2 月～2022 年 5 月にかけて、変動はあるものの、12～53%で推移していた。その後、免疫獲得個体の割合はやや減少し、4～37%で、感受性個体の割合は 63～96%で推移している（図 3-4-7-b）。免疫獲得個体は主に北部から中部にかけて分布しており、南部でも確認されている（図 3-4-7-c）。感受性個体は北部から南部にかけて確認されている。

図 3-4-7-a 和歌山県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

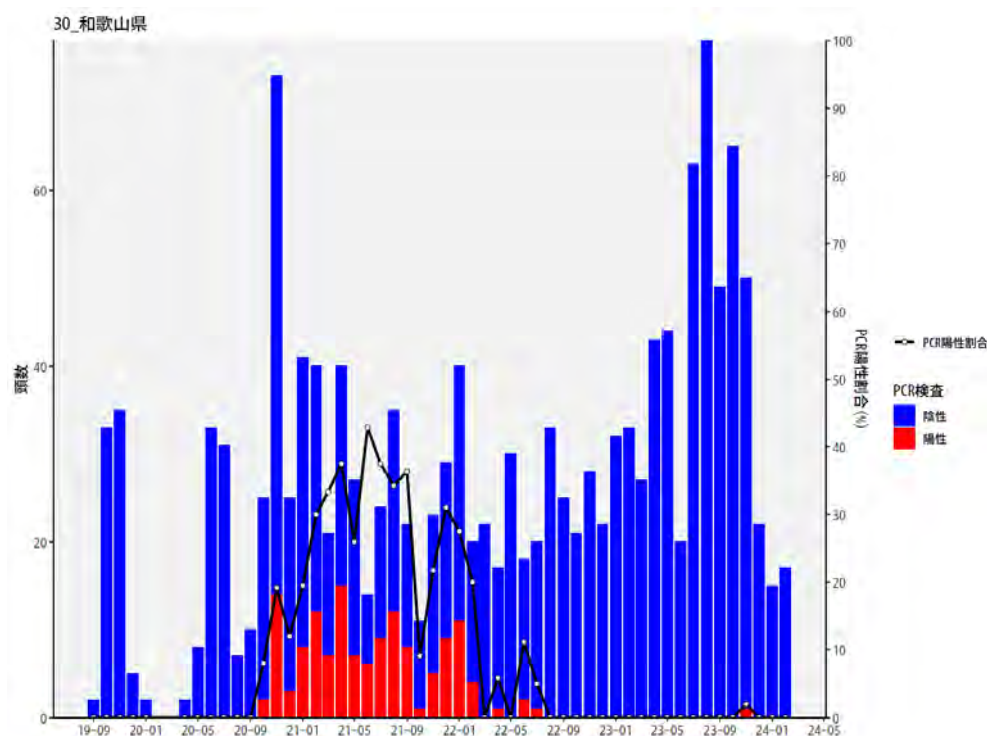


図 3-4-7-b 和歌山県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

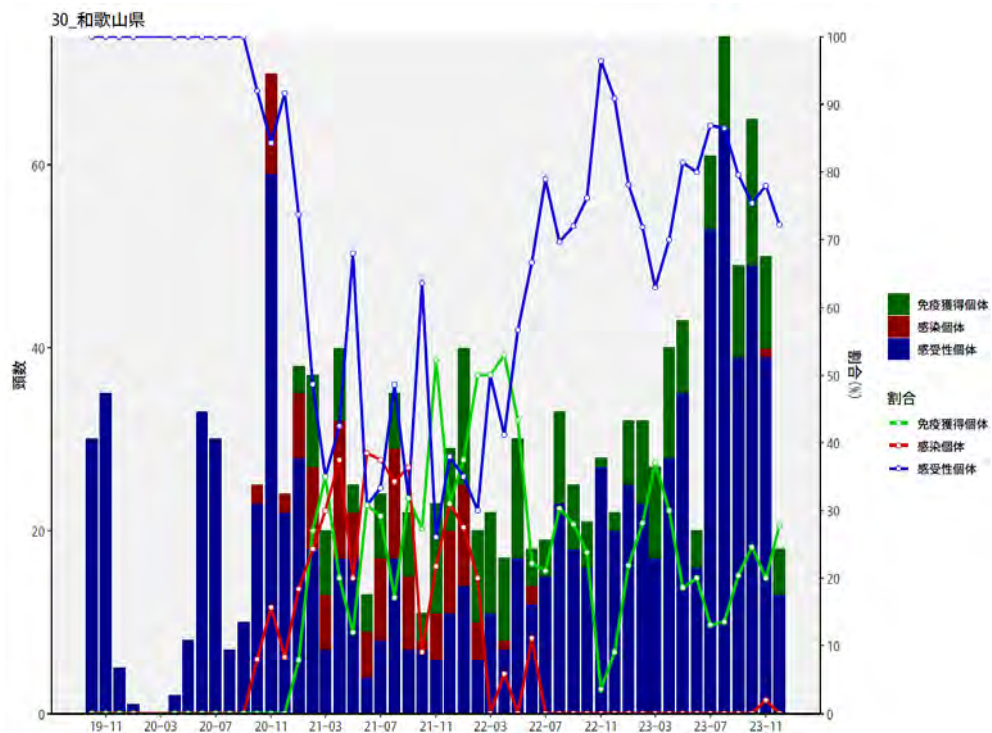
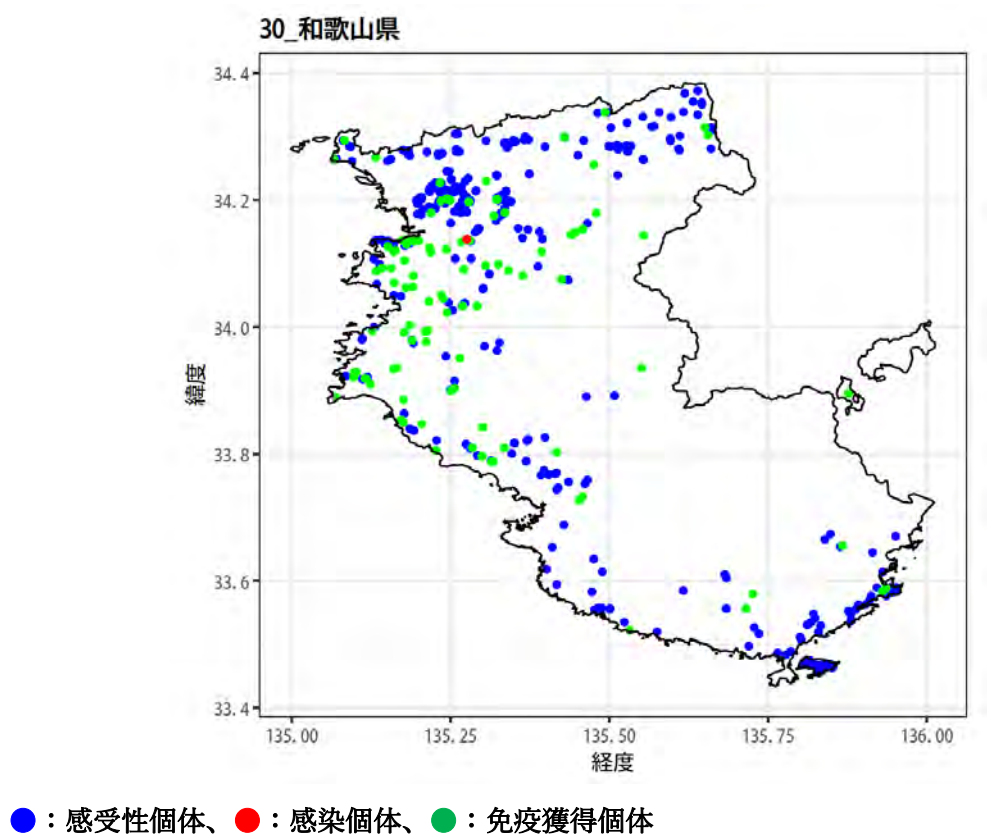


図 3-4-7-c 和歌山県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



3-5 中国・四国地方

3-5-1 鳥取県

鳥取県では、2023 年 1 月に東部の八頭町で豚熱の感染事例が初めて見つかった。初発事例確認以降、同年 7 月までに毎月 1～9 頭の感染個体が確認され、4～6 月にかけては PCR 陽性割合が 12～21%に達した（図 3-5-1-a）。2023 年 12 月以降、感染個体は確認されていない。感染個体は東部で確認されている（図 3-5-1-b）。イノシシへの経口ワクチン散布は、2021 年 10 月に東部の県境で開始された。

図 3-5-1-a 鳥取県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

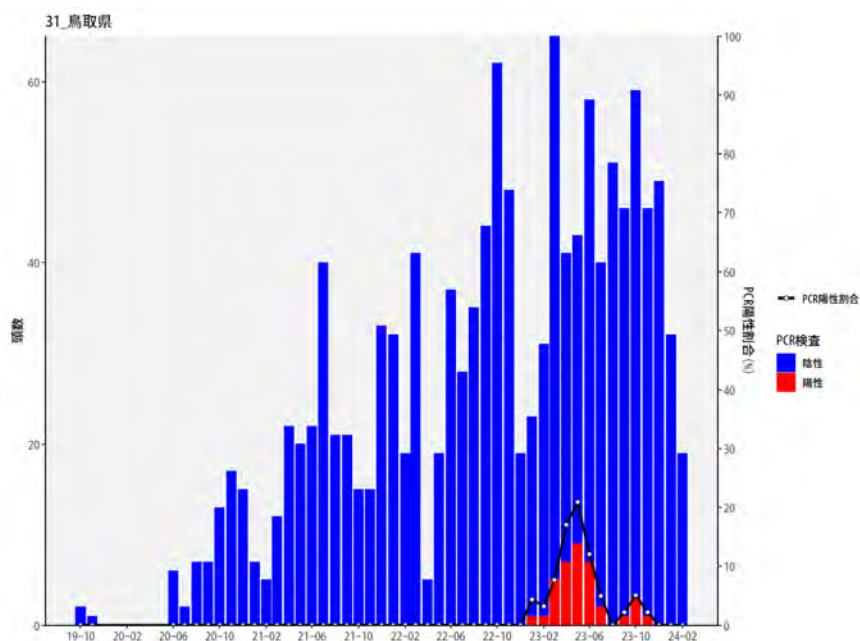
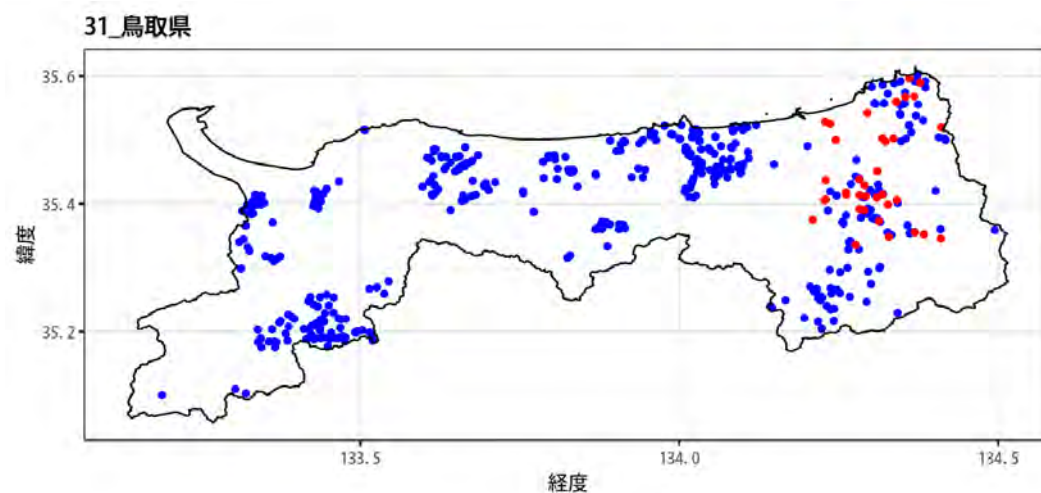


図 3-5-1-b 鳥取県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-5-2 島根県

島根県では、2022 年 5 月に西部の吉賀町で豚熱の感染事例が初めて見つかった。同年 8 月以降、毎月 1～13 頭の感染個体が確認されている。PCR 陽性割合は 2022 年 12 月と翌年 3 月に約 30%に達した（図 3-5-2-a）。2023 年 11 月～翌年 1 月の PCR 陽性割合は約 10% となっている。感染個体は西部から中部にかけて分布している（図 3-5-2-b）。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 7 月に西部の吉賀町で開始された。

図 3-5-2-a 島根県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

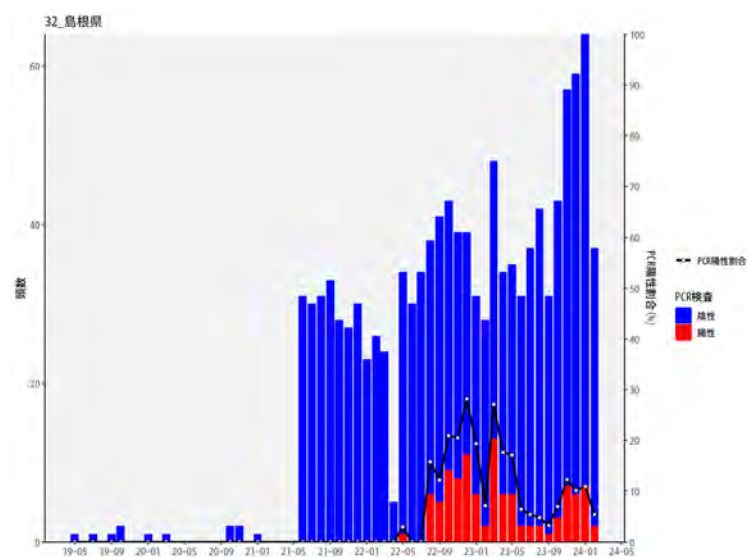
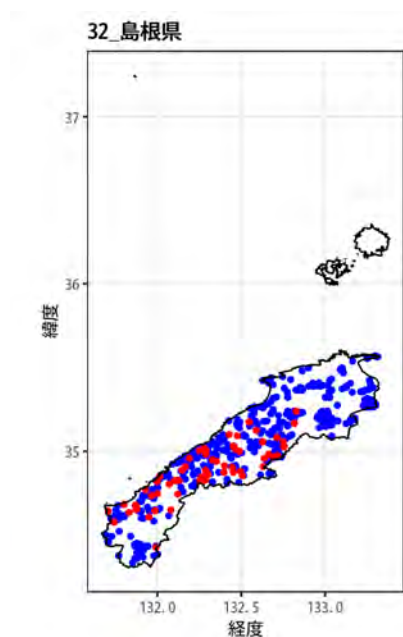


図 3-5-2-b 島根県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体

3-5-3 岡山県

岡山県では、2024 年 2 月に西部の高梁市で豚熱の感染事例が初めて見つかった（図 3-5-3-a, 図 3-5-3-b）。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 2 月に東部の備前市と美作市で開始された。

図 3-5-3-a 岡山県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

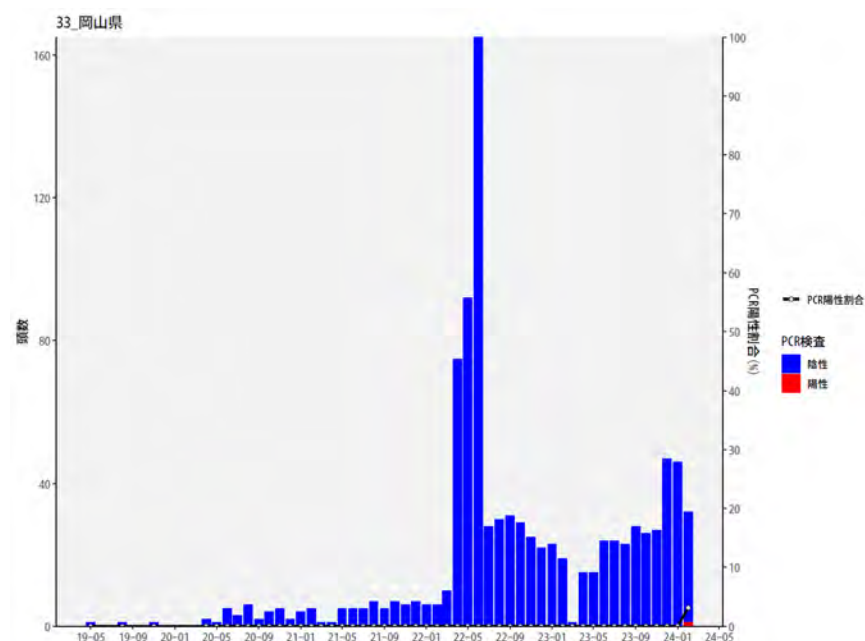
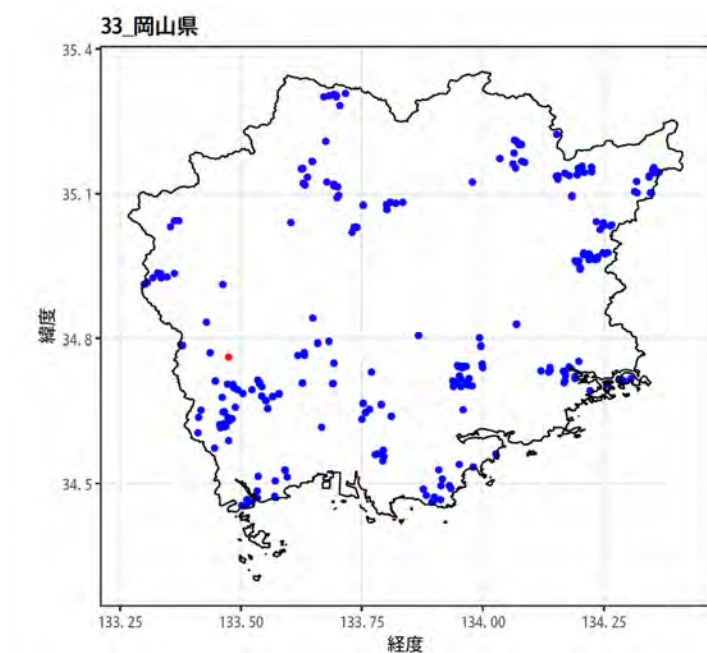


図 3-5-3-b 岡山県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体

3-5-4 広島県

広島県では、2022 年 3 月に西部の大竹市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。2022 年 10 月以降、ほぼ毎月 1～4 頭の感染個体が確認されている（図 3-5-4-a）。感染個体は西部から中部に分布している（図 3-5-4-b）。2024 年 1 月に東部の府中市で感染イノシシが確認された。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 12 月に北西部の一部地域で開始された。

図 3-5-4-a 広島県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

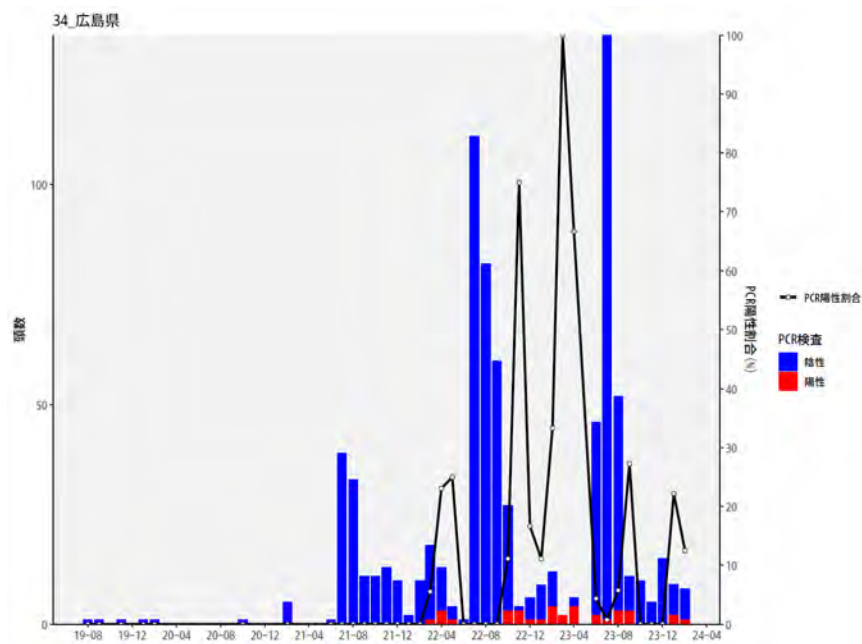
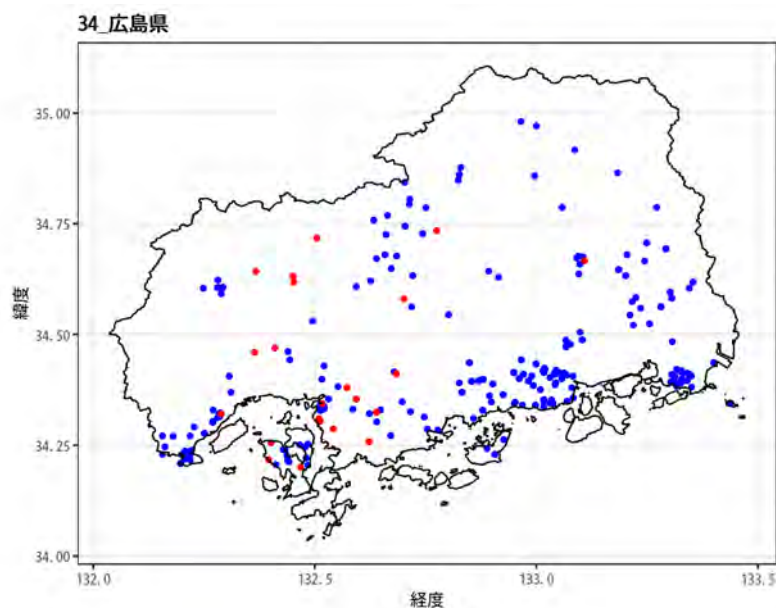


図 3-5-4-b 広島県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体

3-5-5 山口県

山口県では、2022 年 3 月に東部の岩国市で豚熱の感染事例が初めて見つかり、これは中国地方における初の感染事例である。感染個体は毎月 1～10 頭確認されている。PCR 陽性割合は、2023 年 4 月に約 80%に達したものの、2023 年 8 月以降は 10%以下で推移している（図 3-5-5-a）。感染個体は東部から中部で確認され、2023 年 7 月には北西部でも確認された（図 3-5-5-b）。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 4 月と 6 月に東部を中心に開始された。

図 3-5-5-a 山口県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

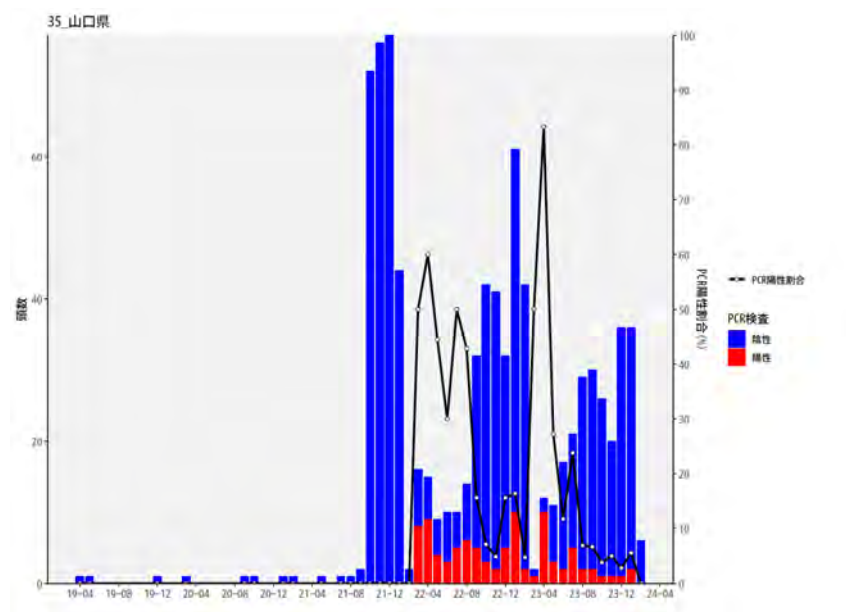
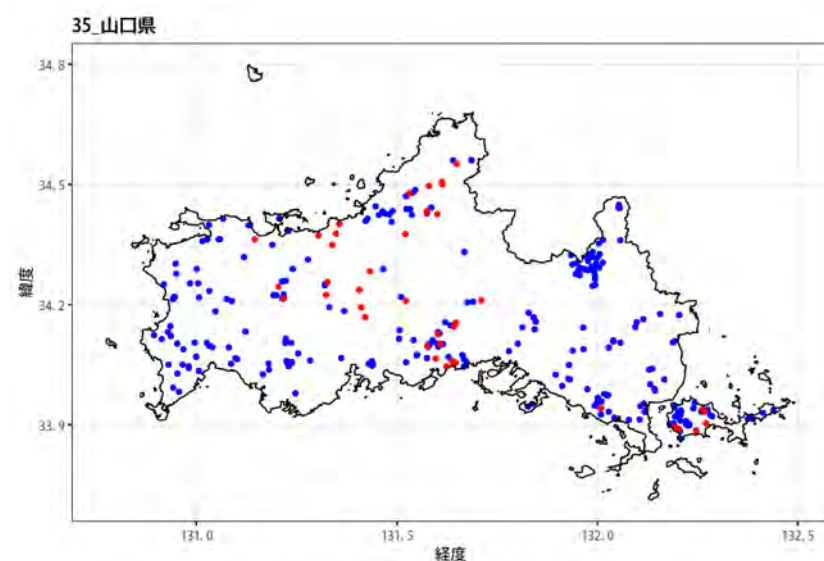


図 3-5-5-b 山口県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体

3-5-6 徳島県

徳島県では、2022 年 7 月に東部の徳島市で豚熱の感染事例が初めて見つかり、これは四国地方における初の感染事例である。感染確認以降、2022 年 12 月まで毎月 2～6 頭の感染個体が確認され、PCR 陽性割合は 4～15%で推移していた（図 3-5-6-a）。その後、感染個体の確認は散発的になったものの、2023 年 9 月以降毎月 1～9 頭の感染が確認されており、PCR 陽性割合は 3～20%で推移している。感染個体は北部での確認が多く、東部、中部、西部、南部でも確認されている（図 3-5-6-b）。2023 年 5 月に東部で免疫獲得個体が初めて確認されて以降、免疫獲得個体は毎月 1～10 頭確認され、2023 年 11 月以降の免疫獲得個体の割合は 30～50%で推移している。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 6 月に東部の鳴門市で開始された。

図 3-5-6-a 徳島県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

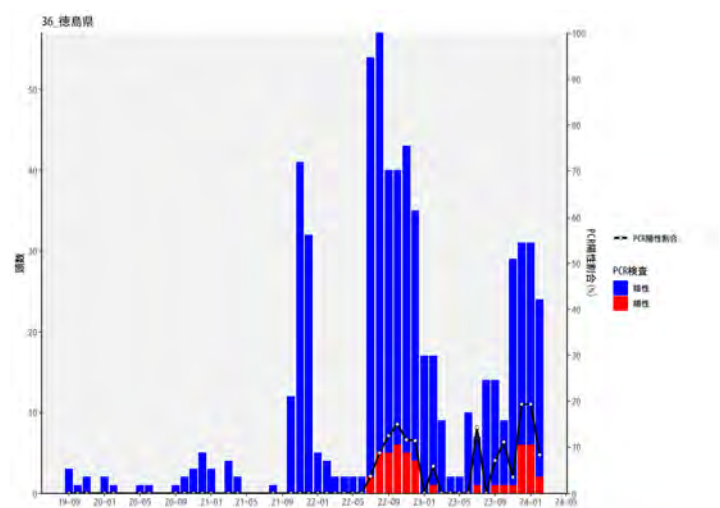
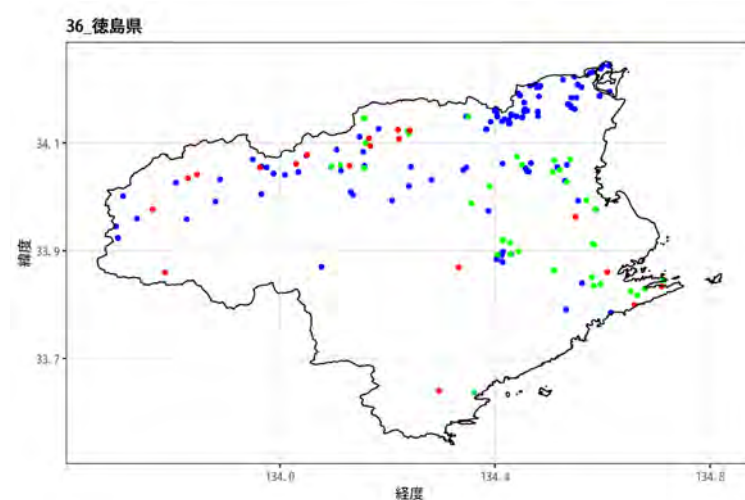


図 3-5-6-b 徳島県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-5-7 香川県

香川県では、2023 年 1 月に北部の坂出市で 2 頭の豚熱の感染事例が初めて見つかった（図 3-5-7-a）。2023 年 4 月以降、毎月 1～15 頭の感染個体が確認されており、PCR 陽性割合は 3～17%で推移している。初発事例が確認された周辺では、同時期に免疫獲得個体も確認されており、この時点では当該地域では経口ワクチンの散布は行っていなかったことから、これは感染に耐過した個体であると考えられる。感染個体は、北部（瀬戸内海側）と南部（徳島県境）で確認されており、2024 年 1 月には西部でも確認されている（図 3-5-7-c）。免疫獲得個体は、北部、南部、及び西部で確認されており、免疫獲得個体の割合は 5～20%で推移している（図 3-5-7-b）。イノシシへの経口ワクチン散布は、2022 年 5 月に南東部の県境の一部地域で開始された。

図 3-5-7-a 香川県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

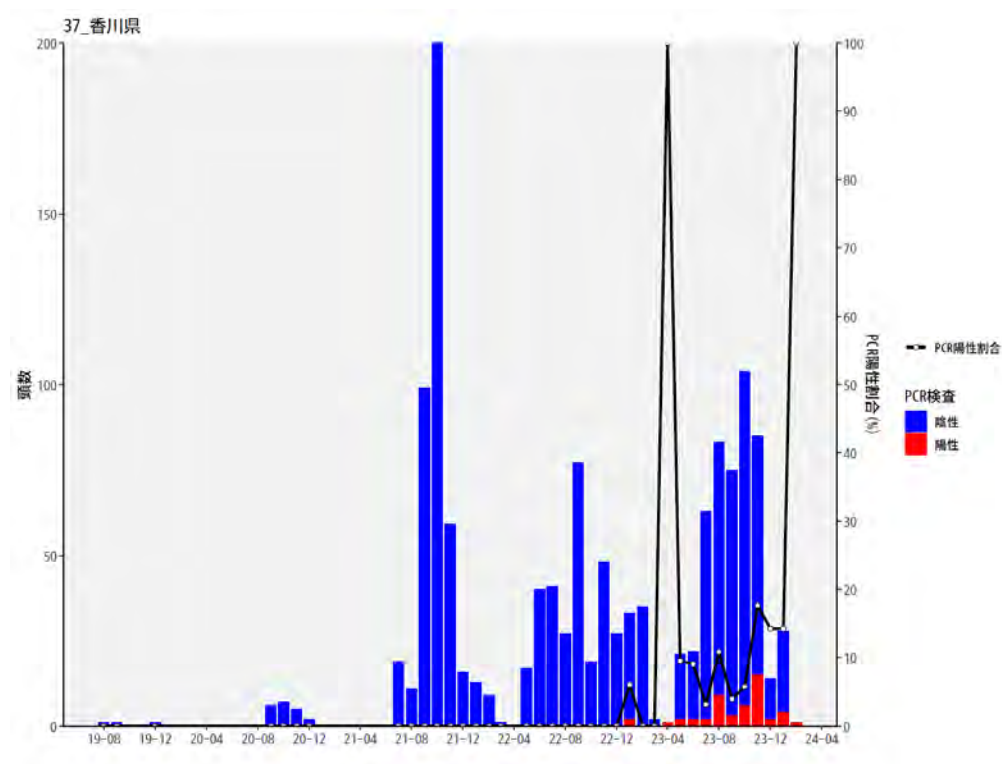


図 3-5-7-b 香川における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

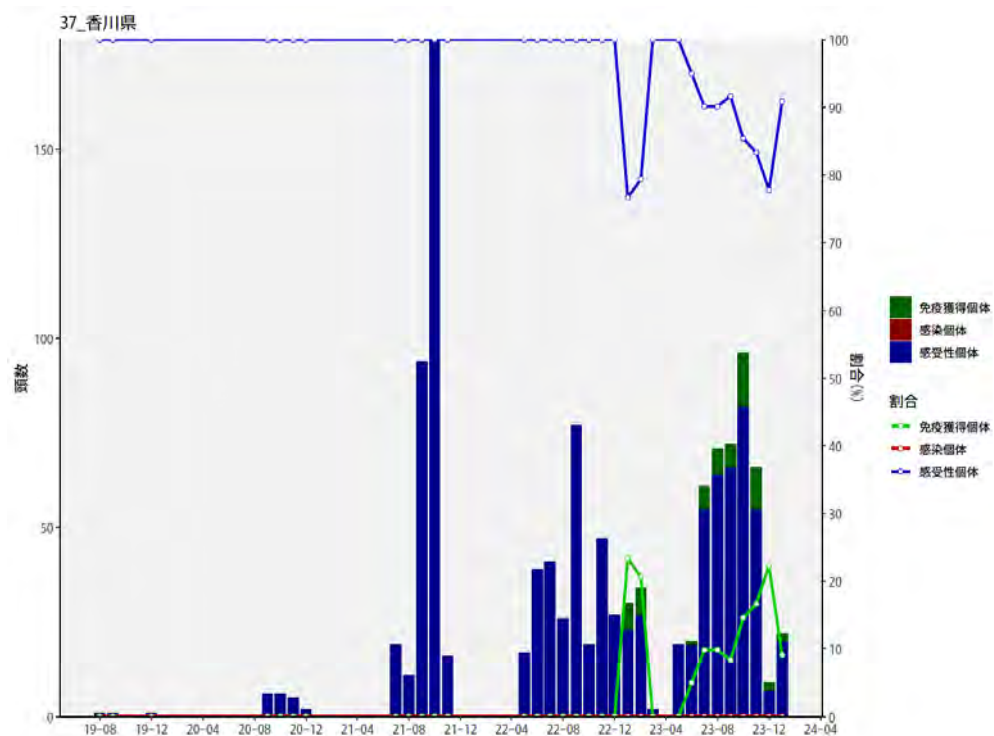
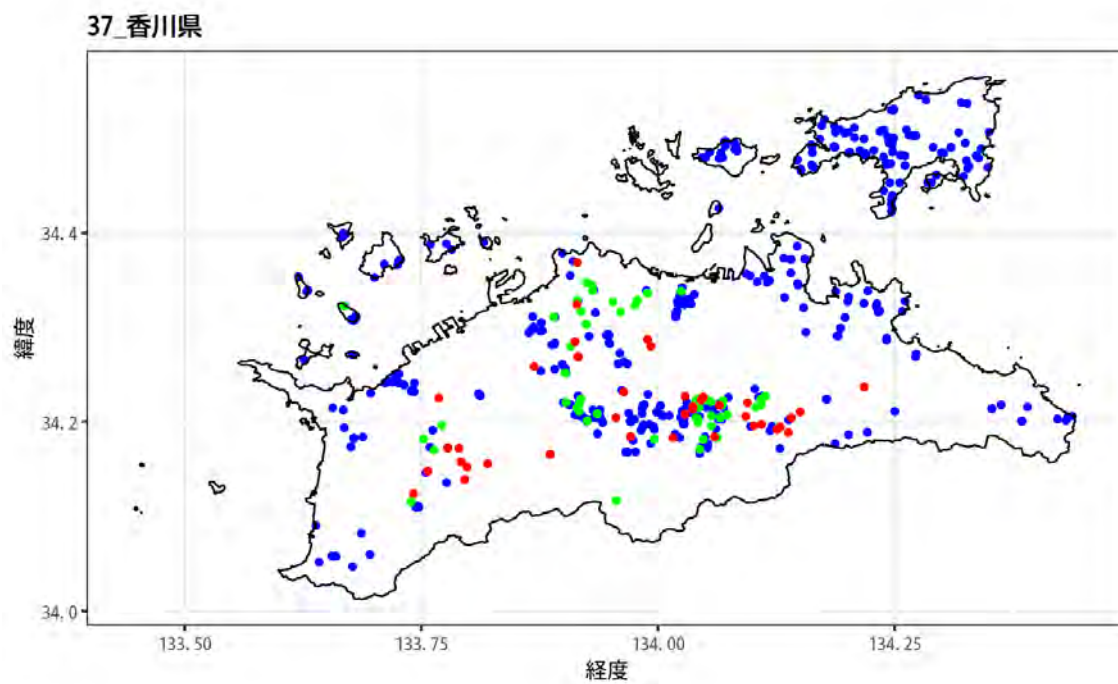


図 3-5-7-c 香川県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体

3-5-8 高知県

高知県では、2022 年 9 月に中部の香美市で豚熱の感染事例が初めて見つかった。感染確認以降、ほぼ毎月 1～7 頭の感染個体が確認されている（図 3-5-8-a）。初発事例が確認された地点では同時期に免疫獲得個体も 1 頭確認されており（図 3-5-8-b）、この時点で当該地域では経口ワクチンの散布は行っていなかったことから、これは感染に耐過した個体であると考えられる。免疫獲得個体は、2023 年 7 月以降、毎月 2～12 頭確認され、10 月には免疫個体の割合は約 40%となっている。感染個体と免疫獲得個体は、中部から東部にかけて確認されている（図 3-5-8-c）。2024 年 1 月には北部（愛媛県境）で感染個体が確認された。高知県では 2022 年 9 月から経口ワクチンの散布が開始された。

図 3-5-8-a 高知県における PCR 陽性頭数と PCR 陽性割合の推移

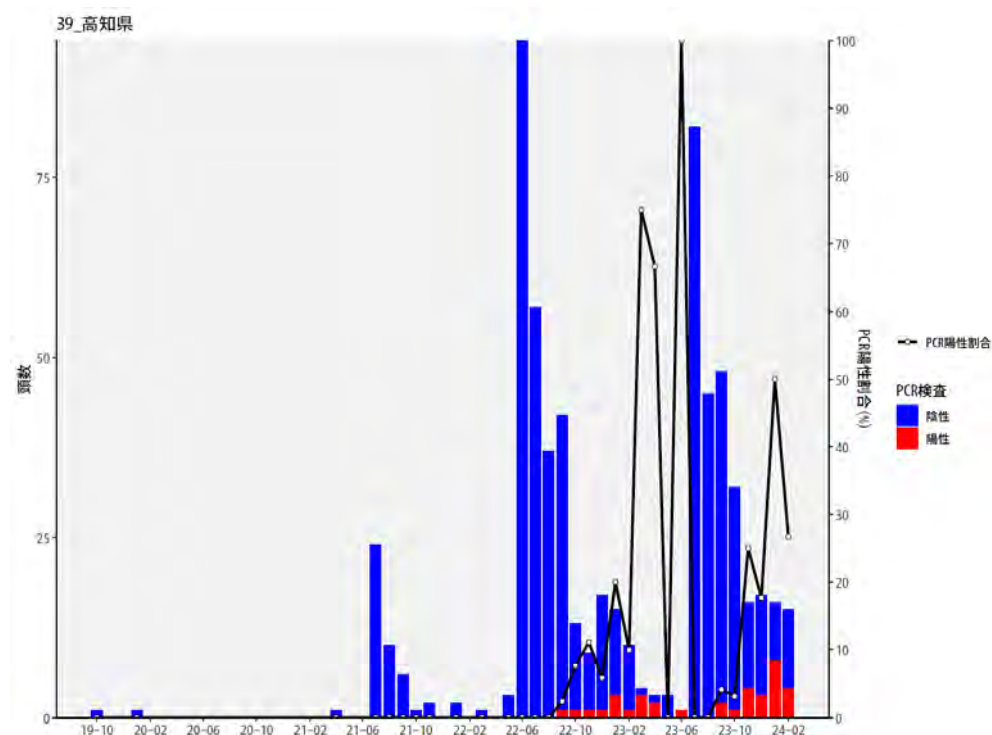


図 3-5-8-b 高知県における感受性個体、感染個体及び免疫獲得個体の推移

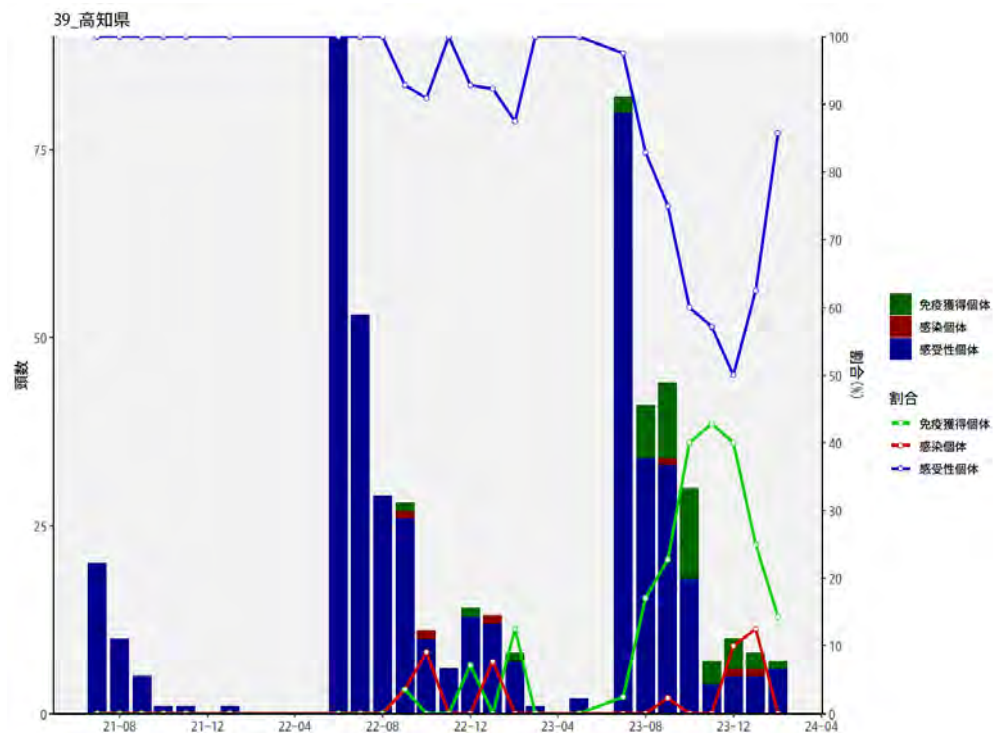
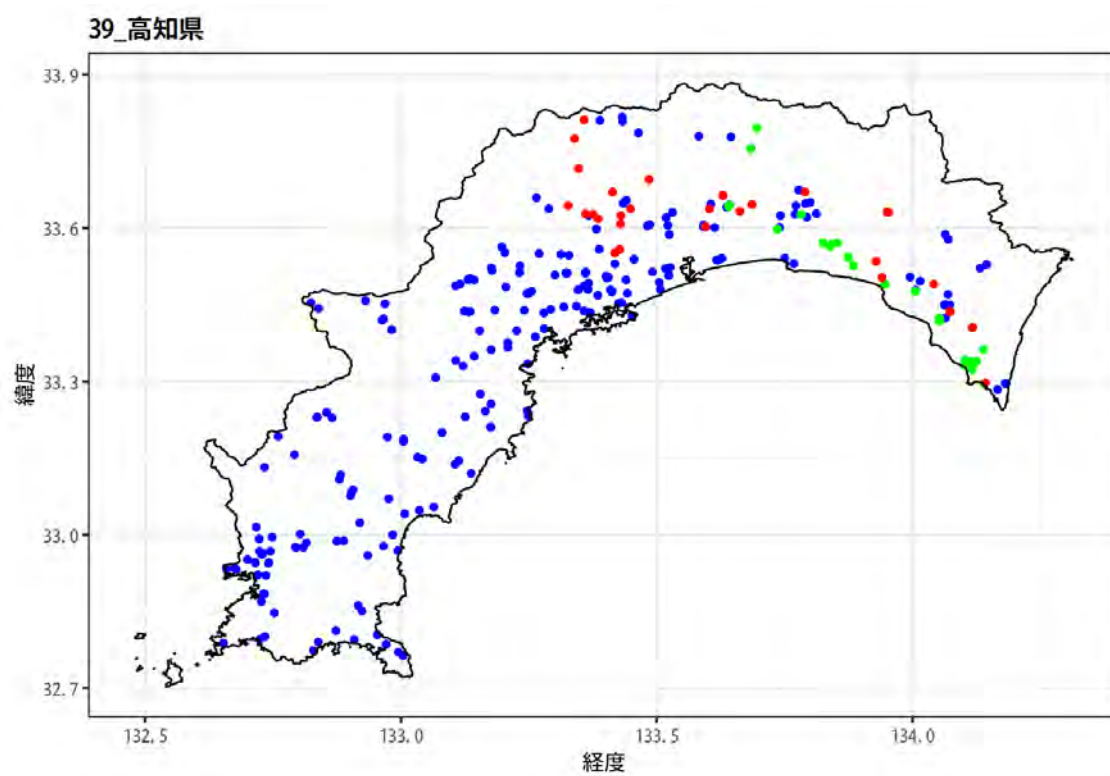


図 3-5-8-c 高知県におけるイノシシの豚熱感染状況（2023 年 1 月～2024 年 2 月）



●：感受性個体、●：感染個体、●：免疫獲得個体